

L L ニュース

No. 34

March 15, 2007

愛知大学豊橋語学教育研究室

特集 一チャレンジ検定試験一



自由の女神があるリバティー島から見たマンハッタン

CONTENTS

◎特集 一チャレンジ検定試験一		
●自らも検定試験に挑戦して(荒川清秀)	2	●ハングル各種検定について(片 茂永) 16
●英語検定試験への挑戦(塚本銳司)	4	●私の韓国語学習(金田佳奈絵) 18
●使える英語の検定(柳田 彩)	6	●ゴー!! ゴー!! タイ語検定(加納 寛) 18
●独検に挑戦! —傾向と対策—(河合まゆみ)	7	●タイ語検定試験合格への道のり(永坂鮎美) 21
●ドイツ語検定(角 夕貴)	9	●ロシア語検定試験に挑戦(清水伸子) 22
●外国語学習と検定試験 —フランス語—(高橋秀雄)	10	●学習目的の一つとして、「ビジネス日本語能力テスト」 への挑戦を!(中崎温子) 24
●仏検への挑戦(田中春菜)	12	●やった! 県内で最高得点!(成 姉炫) 26
●中検に挑戦 —各級のレベルと対策あれこれ—(塩山正純)	13	◎LL Tea Time
●我学习汉语的方法(木村恵子)	15	●ベトナム人から見た日本語と挨拶 (LE THUY DIEU UYEN) 27
		◎2007年度外国語検定試験奨励金について 28
		◎公開講座「言語」2007プログラム 28

自らも検定試験に挑戦して

国際コミュニケーション学部

荒川 清秀

ドイツ語に挑戦する

中国語を専攻するわたしにとって、英語はともかくドイツ語やフランス語とは一生縁はないものと思っていた。ところが、スイス人と結婚した妻の友人の誘いで、1990年にスイス、ドイツ、イタリアを訪問し、ドイツ語のシャワーを浴びたのをきっかけに、帰国後ドイツ語の学習をはじめた。本当なら同僚の授業に出してもらいたいところだったが、物理的に不可能なので、週4回のNHKラジオ講座を中心に、文学部のドイツ人担当の独文専攻生のクラスにいれてもらうことにした。そして、学生たちが卒業するまでの4年間いっしょに楽しくドイツ語を勉強させてもらった。その間、宿題はもちろん（毎回あった）、テスト（よくあった）も毎回受けた。そのかいあってか、しあげの意味で訪れた95年のドイツ旅行では、思う存分ドイツ語を使うことができた。思えばあれは、わたしのドイツ語力のピークだったかもしれない。そして、知識でのこぼこをならすのと、客観的に力を試すために受けたのがドイツ語検定だった。まず4級、ついで3級に挑戦し、どちらも一回でめでたく合格することができた。

フランス語に挑戦する

フランス語をはじめたのは98年の4月である。フランス人の先生にもつきたいと思い、学内のフランス人の先生に受講を申し出たが、なぜか断られてしまった。わたしは他の教員が自分の授業に出たいと言ってきたときは、当然歓迎してきたからこれは意外だった。仕方がないので、ラジオ講座を中心にも勉強を進めた。さいわい、すてきな女の先生で、「みなさま、こんにちは」という語り口に魅せられて一生懸命勉強した。

フランス語をはじめたのはその夏にフランスに行く計画があったからだ。その夏はまずロンドンに行き、そこからユーロスターでパリに入り、フランスで1週間滞在したあと、ドイツのゲッティンゲンに向かった。フランスでは、ホテルなどでできるだけフランス語を使ってみたが、半年の学習ではまだ心許ない。それで最初だけ「英語で話してもいいですか」というフランス語を覚えていき、あとは英語を混ぜながら話した。フランス人は英語を話さない、覚えようとしているという話を聞いていたが、意外に英語が通じた。しかし、パリの中のレストランに入ったときは英語が通じず、英語と片言のフランスを混ぜながら奮闘した覚えがある。帰国後もラジオ講座の入門編と応用編を中心にフランス語の勉強は続けた。しかし、フランス語は実践の機会があまりなかったので伸び悩んだ。それでも、検定試験は受けてみようと思い、4級、3級と順に受けた。4級はかなり準備したので、新傾向の問題がどれか、どこがひっかけるところかまで客観視することができた。しかし、3級はなかなか準備ができず、最後は動詞の活用を中心に、出るであろうと予想されるところを重点的に勉強、ヤマがあたってめでたく合格ということになったが、フランス語の方はドイツ語ほどの力はない。

3級の力はほおっておけば衰えていく

そもそも、3級合格というのはその言語に「入門した」、その言語がどんなものかおぼろげながらわかる程度で、その後学習を続けていないと、時間とともに忘れていく。ドイツ語は2級までめざして勉強したし、ドイツには数度行って、ドイツではドイツ語だけで通したから、いまでもフランス語よりは覚えているが、これも時間の問題で、今のままだとますます衰えていくのは間違いない。言語学者の千野栄一さんは『外国語上達法』（岩波新書）で「必要もないのにいくつも外国語ができるというのは罪悪である」という先輩のことばを引用している。それは一つの外国語のレベルを維持するにはふだんから一定の時間をあてて復習する時間が必要だからである。言い得て妙と言うべきである。外国語力を維持するには、それを維持するための動機が必要なのである。

よい先生、よいテキスト

千野さんも言っているが、外国語学習に必要なものは、まずよい先生にめぐまれ、ついでよいテキストに出会えることである。よい先生は、よいテキストを用意するだろうし、少々問題があるテキストでもそれをうまく使いこなすはずだ。上で述べたように、わたしはドイツ語学習ではラジオ講座を中心にしてきた。自分が担当したから言うわけではないが、NHKのラジオ講座はそれなりの人が教えていて信頼できる。もちろん、人によって合う合わないがあるって、ロシア文学で有名な（批評では優れた人だと思うが）ある人などは、一度聞いただけで、やる気が失せてしまった。わたしが最初に習ったドイツ語講座では、先生もよかったですがテキストもよくできていて朗読するのが楽しかった。わたしはこのテキストの本文部分だけを編集したテープをつくり、くりかえし読んで暗記した。この朗読、暗記は外国語学習の基本であるが、意外に今の学生はやらない。外国語をみずから生み出す力がないわたしたちにとって、外国語を話すためにはまず多くの外国語をインプットしなければならないし、それを外国語らしく言うためには、模範となる音声をくりかえし聞き、声に出て暗唱する必要がある。

ドリル、そして検定試験

よい先生、よいテキストに巡り会えたなら、その次に外国語学習に必要なものとしてドリルがある。テキストにもたいていいくらいのドリル、練習問題がついている。テキストの本文を覚えるのは基本だし出発点ではあるが、これを実際に応用するには、置き換え練習を含むドリルをたくさんしなければならない。テキストの本文も全体を覚えるのが理想だが、実際には自分が使いたい例文だけが頭に残ればいい。置き換え練習でも、すべてをマスターしようとせず、自分にとって役に立つ例から覚えればいい。

そして、そのドリルの頂点にあるのが各種検定試験だ。検定試験対策問題集というのは、もちろん試験によく出る問題に焦点をあてているから、それができることがイコールその外国語の力と言い切ることもできない。TOEICで点の低い人の方がよくしゃ

べれるということも珍しくない。しかし、対策問題集をやるとその言語のポイントが見えてくる。よい先生についている人は、その先生から学習のポイントを教えてもらえる。時間はたくさんかけているのに伸びないと嘆いている人がいる。それはひとつには、どこがポイントか、どこに時間とエネルギーを注ぐべきかが分からぬからである。対策問題集をやれば、外国語学習でどこにエネルギーを注げばいいかが見えてくる。

もっとも、対策問題集は、オーソドックスな勉強を補完するものである。自分がやってきた方法が正しかったかどうかをチェックするものである。しかし、中にはオーソドックスな勉強をせずに、ひたすら問題集を解くことにばかりに熱心な人がいる。これは悲しい。こういう人の中には、外国語を学ぶ目標は検定試験に受かることだと考えている人が多い。検定試験は確かに大きな動機付けになる。しかし、検定に受かることだけが外国語学習の目標というのでは寂しい。外国語学習の楽しさは、やはりコミュニケーションの楽しさではないだろうか。

わたしは05年の秋から06年の春にかけラジオのハングル講座を聴いた。もし、3月の日中韓近代語の学会出席をかねた韓国訪問がなかったら、あれほど真剣にはできなかっただろう。そして、ソウルでは、友人に紹介された韓国人の中国語の先生に、覚えたての韓国語を次から次へと使ってみた。わからないことばは中国語で聞ける。わたしはそのとき、かつて中国語を使って通じたときの喜び、表現を増やそうとひたすら質問をしたエネルギーを思い出し、外国語が通じるという喜びにひたった。もっとも、師範代に立った人はたいへんだったろうが。

資格などいらない、外国語学習は楽しみでやっているのだという人でも、検定は学習の励みになる。勉強を加速させる。外国語学習には自律の他に他律が必要である。だから、外国語を教えていて、テストをしないという先生は信用できない。学生もテストをいやがってはいけない。外国語の学習は復習をしないと意味がない。テストがあると人間は集中的に勉強する。外国語の学習にはそれが必要だ。検定は一つの動機付けになる。

英語検定試験への挑戦

国際コミュニケーション学部

塚 本 錠 司



英語の運用能力を測るために、試験を受けることが必要である。日々学習していくどれくらいの英語が上達したのか、実感することもあるが、試験を受けることによって自分の英語力を客観的に測ることができる。また、試験の点数や級の合格を目指すとともに、一つの英語学習の動機付けとなる。ここでは、大学生が受験する機会の多いTOEIC、TOEFL、実用英語技能検定、国際連合公用語英語検定試験の4つについて説明したいと思う。

TOEIC(Test of English for International Communication)は、主に職場環境における英語のコミュニケーション能力を評価する試験である。2006年から新しい形式の試験が実施され、旧来のTOEICより、実際のコミュニケーションに近い形式で問題が出されるようになった。以前より長い文章を読んだり、複数の文章の情報を関連づけて理解しているかどうかを問う問題が出題されるようになった。また、発音においては、英語が世界の様々な地域で使われていることを考慮し、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア(ニュージーランドを含む)のアクセントが導入されたが、それらの国の歴史や文化に関する事項が理解できなければ答えられないような問題ではない。単語の綴りはアメリカ英語に準拠しているが、アメリカ以外の人々がわからないような単語は問題に出されない。

従来のTOEICと問題形式が変わったのは、リスニングセクションで、写真描写問題が20問から10間に減り、その代わり説明文問題が20問から30間に増えた。リスニングテストは合計100問を45分で解くが、そこは変わっていない。リーディングセクションは20問あった誤文訂正問題がなくなり、その代わり長文穴埋め問題が12問となり、読解問題では1つの文章問題が28問、2つの文章問題を読んで解くのが20

問となった。75分間で100問解くということは以前と同じである。

TOEICの対策としては、常日頃から英語のニュースや番組を聞いて、耳を英語の発音に慣れしておくことや、英字新聞を定期的に購読し、英語の理解力や単語力を高めておくことが必要である。また、実際の日常生活で英語を使う場面があれば、是非恥ずかしがらずに、英語を話すようにしたい。

次にTOEFL(Test of English as a Foreign Language)を説明する。この試験は1964年にアメリカの大学に留学する英語を母国語としない人が、どれほどの英語力があるのかを測るために開発された試験だ。それ以降、言語学、心理学、教育学などの専門家たちが改良し、今日のTOEFLになっている。この試験はアメリカやカナダの大学や大学院で勉強するために十分な英語力があるかどうかを測定する試験で、前述のTOEICより学術的な内容が出題される。

2006年よりインターネット上で受けるTOEFL (Internet-based TOEFL)が実施され、コンピュータによるTOEFL(Computer-based TOEFL)は廃止された。インターネット上で受けるTOEFLは2006年現在、福岡、京都、大阪、佐世保、東京で受験することができる。この新しいTOEFLは英語を話す、聞く、読む、書くという4技能を別々に評価するのではなく、総合的に評価するような問題が出題される。たとえば、講義を聴いた後にその内容に対して英語で答えるとか、また学術論文を読んだ後にその内容についてまとめるといったような問題形式だ。インターネット上で受けるTOEFLはより現実的な状況、つまり大学や大学院で実際に講義を受けてレポートを書くという状況において、どれほど英語の能力があるのかを測る試験となっている。

読解問題では650語から750語の英文を読んで、設問に答える形式だ。リスニングにおいては、会話や講義を聴いてその会話や講義の重要な考え方を理解する問題が出される。ライティングにおいては、講義を聞き、講義の内容の説明文を読んでから、その内容について作文をしたり、またあるトピックについて英作文を書く。スピーキングについては、身近な話題についてマイクロフォンを通して話し、また何か講義を聞き、その後にそれに関する文献を読み、さらにもう一度講義を聴いて、そのこと全体について話すような問題も出される。

テストスコアに関して、インターネット上で受けたTOEFLは、今までとは違った配点である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、それぞれのセクションが30点満点で、合計120点となる。アメリカやカナダの大学で学ぶのに最低限必要とされる英語力は今までのTOEFL(Paper-based TOEFL)では500点であったが、それに相当するインターネット上で受けるTOEFLは61点である。ちなみに、理系の大学院レベルで最低限必要な英語力(Paper-based TOEFLで550点)は80点、文系の大学院レベルで必要とされる英語力(Paper-based TOEFLで600点)は100点となる。

TOEFLはアメリカやカナダの大学や大学院で勉強したい学生が受験する試験で、TOEICより内容が学術的で難しい。しかし、総合的な英語力や学びの場での英語運用能力を測るために最適の試験ではないかと思う。日頃から英字新聞を読んだり、英語の授業で出される教材の予習や復習をしたり、また英語のラジオ番組やニュースを見たりして、とにかく英語に接する機会や英語を使う機会を増やして、総合的な英語力の向上を目指してほしい。

TOEICやTOEFLは試験の結果が点数として示されるが、実用英語技能検定はある点数以上をとればその受験した級に合格するという試験である。大学生としては是非準1級や1級を目指してほしい。英検は聞く、話す、読む、書く、の4技能を基本的なことから総合的な運用能力までを測るように構成されている。試験内容は実際の日常の場面で英語が使えるかどうかという実践的英語コミュニケーション能力が試されるものである。題材は日常会話から新聞、雑誌、テレビなどで扱われる様々な話題からとられ、また日本人が英語でコミュニケーションをとるときに必要な日本の社会や文化に関することも取り上げられる。準1級は筆記試験が90分とリスニングが約25分、英作文を除いては4肢選択問題である。二次試験は英語での面接が約8分で、4コマのイラストを英語で説明し、カードに書いてあるトピックについて英語で意見を述べる形式である。

1級は以前よりも合格率は上がったものの、かなり難しい英語の試験である。一次試験は筆記試験が100分とリスニングが約30分である。英作文以外は4肢選択問題だが、準1級に比べて単語の難易度は高

い。日頃からThe New York Timesなどの英字新聞やThe Timesなどの週刊誌を読むように心がけたい。二次試験は英語での面接が約10分で、その場で与えられた5つのトピックの中から1つ選び、2分間スピーチを行うものである。トピックとしては、科学の発展は常に有益かどうか、世界経済における日本の役割、といったいろいろな分野から出されるので、新聞や雑誌に目を通し、様々な社会問題に対して英語で自分の意見が言えるように準備しておきたい。

国連連合公用語英語検定試験は実用英語技能検定ほど知られてはいないが、国際情勢に興味がある学生には是非挑戦してほしい資格試験である。国連英検の特長は国際連合の理念である国際理解と国際協力の普及の一環として行われる検定試験で、試験内容も国際連合に関することや国際情勢に関することが含まれている。C級は高校修了程度の英語力が必要で、語彙も3000程度に限定され、文法、読解、リスニングのテストが課される。B級は英字新聞や雑誌の比較的易しい記事や会話文、また短編小説などから内容理解の問題が出題される。またリスニングテストと日常的な話題や時事問題について自分の意見を英語で書く課題作文が出される。A級は実用英語検定で1級に相当するレベルで、英字新聞や小説のある部分を読んでから問題を解く形式で、時事問題などもよく取り上げられる。また150字から200字の英作文が課される。二次試験は英語による面接が10分間あり、世界情勢について自分の考えを述べる。特A級は英語の読解問題と200字から250字の英作文が一次試験で、二次試験は世界情勢、文化、経済など広範囲にわたって自由に英語で討論できるかどうかを試す面接が15分ある。国連などの国際機関で働くには、A級以上の英語力が必要だ。

以上4つの英語検定について説明したが、大切なことは志を持って日頃から英語学習に取り組むことだ。言語の習得に楽な方法はない。毎日こつこつと英語を読む習慣をつけ、単語力をつけ、英語のニュースや番組や映画を観るようにして英語の音に耳慣れさせ、そして大学の英語の授業の予習、復習をしっかりすることが基本となる。今一度、どうして英語力を向上させたいのか、その理由をよく考え、自分の目的に達するように英語学習を工夫し、ここで挙げた4つの英語の検定試験に挑戦して欲しい。

使える英語の検定

国際コミュニケーション学部 2年

櫛 田 彩

大学生の私たちにとって、重要な語学検定の一つとしてTOEICがあるだろう。中学・高校生までは語学検定と言えば英検を思い浮かべる人が多く、より上の級に合格するために何回か挑戦してきた。しかし、大学生になってから、TOEICやTOEFLといった今まで受けたことがないような試験が、就職や留学の時に必要になってくるということを知り、今多くの学生が勉強をしている。ここでは、私がこれまでに受けてきた語学検定や、それぞれの違いについて書こうと思う。

まず初めに受けたことがあるのは英検である。この試験は、リスニングのセクションで二回同じ文が放送されるし、今になってから思うことだが、英検は他の試験と比べて比較的易しいのではないかと思う。しかし私が2級を受けた高校生の時に、もちろん私と同じくらいの年代の受験生はいたが、それと同じ数だけの大人も受験していて少し驚いた。今は資格を取るならTOEICの時代という声を耳にするが、実際学生にとって英検の方が馴染みやすいかもしれない。しかし英検は合否で結果が決まるので、受からないことには成績がでないのである。

次に私は高校生の時にアメリカの大学に興味を持ち、TOEFLという試験があることを知りこれまで二度受験した。これはアメリカ、カナダの大学、大学院への留学を希望する、英語を母国語としない人々に課せられる英語能力測定テスト(Test of English as a Foreign Languageの略)である。私は英検やTOEICと比べて、このTOEFLが一番難しく感じられる。なぜなら内容が生物、歴史、哲学といった専門的なものばかりだからである。リスニングセクションも主に、アメリカの大学内で使われるような会話や講義である。しかし専門知識がなくても答えられるようになっているのだが、専門用語が沢山でてくるので、単語を知っているのと知らないのではかなり違うと思う。今までTOEFLはPBT(Paper-Based Testing)だったのが、2000年からCBT(Computer-

Based Testing)に変わり(※)、より正確に受験生の英語力をみることができるようになった。PBTとは大きく異なり、出題、解答はすべて受験者各人の前に置かれたコンピューターを使用して行われるのである。さらに2006年の秋からはIBTに変わり、ストラクチャーが廃止され、スピーキングが導入されたと言う。試験時間が4時間半にもおよぶ長い試験なので、途中5分間の休憩が入るとは言え、集中力と忍耐力がかなり必要である。

最後はTOEICである。今までに3回しか受験したことがないのだが、個人的にTOEICのリーディングセクションは好きである。TOEFLの長くて退屈な長文と比べて、TOEICはEmailや広告などを扱っていて、量は比較的少ないし、面白いからである。初めて受験したのは高校生の時、大学の入学試験に合格した後である。親も会社でTOEICを受けさせられていて、一緒に勉強していたのが、その時はすごく不思議だった。一番最近受けたのが新TOEICである。私にとってアメリカのアクセントは非常に有り難かったのだが、イギリスやオーストラリアのアクセントまで入るとやはり難しい。初めは焦って集中できなかったが、途中からコツをつかみ、なんとか答えられるようになっていた。ストラクチャーのセクションも少し変わったが、こちらはあまり大きく影響はなかった。TOEICはこれから就職する上で一番必要になってくる資格だし、ほとんどの企業が人を採用するときにこの試験の点数も考慮していると言われているので、この試験勉強だけはこれからも必要である。

これらが今までに私が受けてきた試験である。それぞれの目的に応じてそれぞれの検定を受けることが必要だし、試験の出題内容も異なっているので、勉強法も工夫しなければならない。とりあえず資格を持ってれば良いという意識で何でも受験すると遠回りになってしまないので、自分に必要な試験を充分に勉強して、

定期的に受験

するのが一番

賢い方法だと

思う。これか

らももっと英

語の勉強をし

て、検定を受

けて、モチベ



University of Washington

ーションを高めていきたい。

※TOEFL CBTの試験会場がない都道府県や、団体試験では引き続きPBTが実施されている。

独検に挑戦！

—傾向と対策—

文学部

河 合 まゆみ

愛知大学でドイツ語を学ぶ学生たちは、大学に入ってからドイツ語を始める人がほとんどである。最初の一年間は、アーベルツェー（A、B、C）からスタートし、次から次へと新しい文法規則が登場する。授業についていくだけで結構大変である。そうなると、みなさんたいてい、検定試験なんてとても……と尻込みしてしまう。しかし、こと検定試験に関しては、そう引っ込み思案にならず、この特集のタイトルにもあるように、どんどんチャレンジしてもらいたい。

独検とは？

英検は誰でも知っているだろうが、独検もあることをご存知だろうか？財団法人ドイツ語学文学振興会が主催する「ドイツ語技能検定試験」、略して「独検」は、東西ドイツ統一後の1992年に発足した。その基本的な方針は、ドイツ語の語学力は、「読み、書き、聞き、話す」の各能力の総合によって成り立つという考え方である。したがって検定試験では、これらの能力がバランスよく身に付いているかどうかが問われることになる。レベルは、大学一年生でも合格可能な4級から、相当ハイレベルな1級まであり、愛知大学で共通外国語としてドイツ語を学習する学生さんも、4級、3級は十分に合格可能である。以下では、この4級と3級にしぼって話を進めていく。

検定試験の概要は次の通りである。

- 試験日程 春は6月、秋は11月。
- 検定料 4級は4000円、3級は6000円。
- 試験会場 東海地区は名古屋大学が会場。
- 検定基準
4級は、ドイツ語の初步的な文法規則を理解し、日常生活に必要な基本単語が運用できる。（ドイ

ツ語授業を約60時間受講しているか、これと同程度の学習経験のある人）

3級は、ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる。（ドイツ語授業を約120時間受講しているか、これと同程度の学習経験のある人）

○ 試験内容

4級、3級とも、筆記（60分）、聞き取り（約20分、一部書き取りを含む）。

詳しくは独検のホームページ <http://www.dokken.or.jp> を参照していただきたい。

傾向と対策

ここでは、4級の出題傾向とその対策を簡単に述べるが、3級以上に挑戦する人は、授業担当のドイツ語教員に遠慮なく声をかけてほしい。きっと親身になって相談にのってくれるはずである。

4級の検定基準に、ドイツ語授業を約60時間受講していることあるが、愛知大学の1年生で、基礎ドイツ語、入門ドイツ語の授業を履修していれば、秋の試験時には、この基準を十分満たすことになる。4級の問題内容は次の通りである。

筆記試験（すべて選択問題）

設問1、発音とアクセントの問題。

設問2、動詞、助動詞の現在人称変化の問題。

設問3、冠詞類や代名詞の格変化、および複数形の問題。

設問4、語彙力、あるいは語順を問う問題。

設問5、前置詞、疑問詞の問題。

設問6、日常生活で使う慣用的表現の問題。

設問7、言語情報と非言語情報（地図や絵）の一致を問う問題。

設問8、会話文を完成させる問題。

設問9、長文読解。

聞き取り試験（一部書き取りを含む）

第1部、質問に関する答えを聞き取る問題。

第2部、短いアナウンスの内容を把握する問題。

第3部、絵を見て答える問題。

（以上は、2005年度春、秋実施の試験問題の内容であるが、例年、問題形式はほとんど同じである。）

筆記試験について言えば、文法はほとんどが春学期で習う範囲である。ただ話法の助動詞は、教科書によっては秋学期になることもある。発音とアクセントは必ず出題される。ドイツ語の発音、アクセントは英語と異なるため、最初はとまどうかもしれないが、規則を飲み込んでしまえばそれほど難しくはない。動詞、助動詞の変化は不規則なものが含まれるので、要注意である。冠詞類や代名詞の格変化も、もちろん覚えておかねばならない。前置詞は、意味だけでなく、格支配も頭に入れておこう。ただ重要な文法規則を頭に詰め込んだだけでは、試験突破は難しい。ある程度の語彙力が備わっていることも必要である。漫然と授業に出ているだけでは、語彙力はつかないので、日頃からマメに単語を調べる癖をつけ、よく出てくる単語から覚えていくようにしよう。4級の詳しい検定基準には、「■簡単な自己紹介や道案内などの日常的な表現が使え、駅のアナウンスの時刻や行き先などを聞き取ることができる。■簡単な手紙や短い文章の趣旨が理解できる。■必要に応じてキーワードや重要な情報となる語句や数字を聞き取ることができる」とある。必ず1, 2問は会話形式の問題が出る。日常会話や、観光旅行でのおなじみの会話は、教科書にも必ず取り上げられているはずで、それらをちゃんとチェックし、よく使われる言い回しを覚えておく必要がある。長文にも、教科書等で慣れておこう。

聞き取り試験では、必ず数字が出るので要注意である。数詞は、授業でそれほどくわしくやらない場合もあるので、数に関する様々な表現、時刻、日付、計算など各自でしっかり勉強しておくことが必要である。また答えをドイツ語で書く問題もあるので、正しく綴れることも要求される。問題はかなりゆっくりとしたスピードで読まれ、繰り返されるので、それほど心配する必要はない。ただ平均点で比較すると、筆記より聞き取りのほうが低いので、若干難しいのかもしれない。基礎、入門ドイツ語の授業では、時間が限られているため、教科書付きのテープを聞くくらいで、聞き取りの訓練にはならない。そこでお薦めなのが、選択で開講されているネイティブの先生によるドイツ語会話初級の授業である。あ

るいは、ラジオの「ドイツ語講座」やテレビの「ドイツ語会話」を視聴するのもよいであろう。少しでもドイツ語の音声に慣れておくことが大切である。とくに聞き取り試験は、こつをつかむためにも、また度胸をつけるためにも、独検の過去の問題をやってみることである。郁文堂から「(財) ドイツ語学文学振興会編、独検過去問題集」(聞き取り試験のCD付き)が毎年出ているので、ぜひ利用してほしい。

参考書紹介

一番のお薦めは、なんといっても「過去問」である。「過去問」を数年度分やったうえで、さらに勉強するなら、いろいろ参考書(すべてCD付き)が出ている。「独検合格らくらく30日<4級>」(郁文堂)、「独検4級突破」(三修社)、「新独検4級合格講座」(三修社)などである。語彙力につけるためには、「独検4級突破単語集」(三修社)、「独検合格単語+熟語1800」(第三書房)などもある。前に挙げた独検のホームページにはこういった参考書も紹介されているので、参照してほしい。また3号館のLL自習室には、これらの参考書のほとんどがそろっているので、一度見に行ってほしい。

その他のドイツ語検定試験

世界的に通用するドイツ語の資格がほしい人や、ドイツの大学に留学を考えている人には、ゲーテ・インスティトゥートが主催する様々なレベルの語学試験(ドイツ語大(小)ディプロム試験など)や、テスト・ダフ(TestDaF)がある。これらに関しては、ドイツ語教員に尋ねるか、あるいは、東京ドイツ文化センターのホームページ<http://www.goethe.de/os/tok/>で情報を入手することができる。

検定試験というはっきりとした目標ができれば、大学の授業を受けるよい励みにもなるだろう。また検定試験によって自分の語学力を客観的に測ることで、それが、さらなるステップアップの意欲にもつながることと思う。いまや英語はできて当たり前時代、独検にもチャレンジして、もう一つ外国語ができるることをアピールしてみてはいかがだろうか。

ドイツ語検定

文学部 2年

角 夕 賀

*独検について

独検（ドイツ語技能検定試験）は、4級と3級には比較的受かりやすいようですが、2級と1級に受かるには相当の力が必要となります。3級と2級の間に相当の差があり、英検・仏検の1～準2級がおおよそ独検の1・2級に、英検・仏検の3～5級が独検の3・4級に相当しているそうです。協会の検定基準では、「4級はドイツ語授業約60時間受講に相当」・「3級は120時間受講に相当」・「2級は240時間受講に相当」ときれいに段階化されていますが、実際には2級は授業を受けているだけではとても受からないようです。2級からは会話の二次試験が加わり、より総合的な力を求められます。

*独検を受けたいきさつ

私は昨年の十一月に、初めて独検（四級）を受験しました。四月にドイツ語を学び始めたときから、何か小さいものであれ目標を立てながら学習したいと考えていました。学び始めた頃は教科書のドイツ語にすら圧倒されている状態で、授業以外のことには手がまわりませんでしたが、夏が過ぎた辺りから、それでも馴染み始め、授業以外のところでも積極的にドイツ語に触れるべきだと改めて感じました。そんな時に、ドイツ語を学習していく上でのステップとして独検を利用するすることを考えたのでした。調べてみて、独検4級の文法範囲が、受験時にはほとんど授業で説明されている内容であることが分かったので、気楽に受験日が来るのを待っていました.....しかししながら、受験日が大分近付いてきた頃に過去問を解いて初めて、遅まきながら私は語彙不足を認識したのでした。試験を約2週間後に控えて『独

合格らくらく30日』（郁文堂）を購入し、毎日問題を3課ずつ解き、巻末付録の“必須単語500語”を100語ずつ確認していました。そしてこの参考書が済んでから、過去問に再度軽く目を通し検定に臨みました。

*その他感じたこと

普段使用している教科書（授業）を理解していれば、独検4級には高確率で受かることが出来るはずです。もし秋期試験までに全て終わっていないとしても、残っているのは接続法の基礎くらいだと思うので自分でカバーすることは十分に可能です。同じことが、3級においても言えます。先にも書きましたが、文法よりも語彙が不足しがちです。3級の『独検合格らくらく30日』にも、"必須単語 1000語"が付録としてあるのでそれを利用するのが良いと思います。リスニング試験は問題数が少ないので、毎日何かしらドイツ語を聴いていれば苦も無いと思います（NHKラジオ講座など）。

私はしばしばドイツ語の先生方と話をしていたこともあります。ドイツ語に関する情報を教えて頂いたり、本を頂いたりと、様々な形で学習に対する援助をして頂くことが出来ました。少し話がそれますが、自習可能な初級解説書を探していた私は、図書館で手に取り探した結果、『ひとりで学べるドイツ語』（東洋出版）と『関口・初等ドイツ語講座』（三修社）に行き着きました。後者は三巻ものなので、一巻ものが欲しかった私は前者を選択したのですが、少し古い本のため書店で扱っておりませんでした。そこで直に出版元に連絡すると、「数冊、社に残っている中から一冊送る」とのこと、数日後に現物が届きました。しかしながら、振込用紙も何も入っていないなかったため再度連絡すると、無料で下さること！　このことは、自ら積極的にドイツ語学習に取り組もうとした結果、それが良い方向に転じたのだと思っています。またドイツ語を学ぶ上でのステップに独検を置き、ドイツ語を学ぶことで、少しでも視野が広がるように願います。最後に、LLニュースに書く機会を与えて頂いたことに感謝して終わります。

外国語学習と検定試験

—フランス語—

文学部

高橋秀雄

フランス語の検定試験は毎年2回、6月と11月に行われます。愛知大学は6月に豊橋校舎を試験会場として提供しており、私も試験に立会う機会が何回かありました。この経験は私にとって、大学におけるフランス語の学習・教育についてあらためて考える機会ともなりました。ここでは、フランス語学習者の検定試験の利用について考えます。

1. 検定試験とは何だろう？

これからフランス語の検定試験に挑戦しようとしているみなさんに、まずおうかがいします。「あなたはなぜ、あるいはいかなる目的があって、仮検を受けるのですか？」

なぜこんな質問をするのかというと、フランス語検定試験にかかる、私には少し苦い思い出があるからです。5、6年前、3年次に編入した女子の学生がありました。彼女は、編入の面接試験のときに、自分は短大ではフランス語を履修していないが、この大学では是非フランス語をマスターしたい、と言うのです。幸い、彼女は編入試験に合格して、3年次に入学することになりました。そして、経緯は省略しますが、彼女はよくがんばり、ゼロからはじめて、1年以内に仮検3級の試験に合格しました。私は彼女の努力を称え、さあこれからが本格的な勉強ですよ、と励ました。ところが、その後、様子が変わったのです。今まで通り、授業にはちゃんと出るし、レポートも出します。しかし、気が乗っていないことは、一目でわかります。就職活動に時間を割かれるのだ、とも思ってみましたが、それよりもっと基本的なところに原因があるような気がしました。しかし、その原因はわからず、私としては、あのがんばりは何だったのかと、ただただ首をかしげるほかはなかったのです。

それから何年か経って、これは別の学生の話ですが、夏休み後の最初の授業で、フランス語のテクストを音読してもらったところ、読みが畳然とするほどひどくなっているのです。話を聞くと、6月に仮検を受験して3級に合格した、一応の目標を達成したので夏休みの間フランス語を少しも勉強しなかつ

た、と言うのです。ああ、そうか。すでに卒業していたあの編入生の彼女の場合もこれだったのだと考えると、なにもかも合点が行つたのでした。

しかし、合点は行つたが、別の疑問が湧いてきました。仮検3級に合格したとたんフランス語の勉強をやめてしまうということに、納得が行かないのです。たとえば、長い練習の末自動車の免許を取得するというのは一般道路で自由に車を運転する許可がようやく下りたということを意味しますが、免許を取得したとたん車の運転をぶつかりやめてしまう、ということは考えられないでしょう。外国語の検定試験に合格した後その外国語の勉強をやめてしまうというのは、これと同じではないでしょうか。

2. 仮検3級に合格するという意味について

フランス語の最初の時間に受講者に、フランス語を学習する目的は何ですか、と質問すると、「話せるようになりたいのです」という答えがよく返ってきます。「話せるようになりたい」は、フランス語を使えるようになりたい、つまりフランス語を話す・聞く・読む・書く能力を身につけたい、と言い換えることができるでしょう。では、フランス語を使えるというのは、どういうレベルなのでしょうか。私はそれが、仮検3級合格のレベルであると考えています。しかし、もちろん、仮検3級に合格したからといって、フランス語がすぐに自在に使えるというわけではありません。当たり前のことでありますが、フランス語を使えるようになるためには、これを常に使うこと、習熟することが、前提条件なのです。

この習熟することと、何らかの資格を取ることの関係については、自動車免許の取得の過程がよく考えさせてくれると思いますので、また少し寄り道をします。自動車の場合、「車を運転できるようになりたい」と言って教習所の門をくぐる受講者に対して、自動車学校はまことに明確な教習の計画を立て指導してくれます。教習課程をよく見てみると、どうやったら車は動くか、というようなメカニズムを習うことも大切ですが、それよりも習熟することに重点が置かれていることがわかります。たとえば、車をまっすぐ走らせて赤信号を見たらブレーキを踏む、曲がり角に来たらハンドルを切って車を右方向にあるいは左方向に向けて走らせる、こうした操作を箱庭のような敷地内で、毎日毎日、何度も何度もくりかえします。習熟のためのくりかえし練習が、路上教習に至るまで続けられて受講者は免許証を手にするわけですが、実際に車を自在に使いこなすようになるには、その後も思いのほか時間がかかるものです。指導員がいない車を運転するのは最初のうちかなり緊張しますし、毎日運転しても、1年間くらいは車に慣れないのが普通でしょう。

仮検3級に合格するというのは、自動車で言えば、こうした運転免許証を取得した段階にあると言えるでしょう。これをフランス語を話せる、あるいは自在に使える段階と考えてはなりません。これは第1段階を経過したにすぎません。次の段階、これが学習の最終の段階と言ってもよいと思いますが、いつまでも続く、楽しい習熟の段階である第2段階がその後に、広く開かれているのです。

3. 仮検3級試験の内容について

仮検3級に合格するために必要な技能は何でしょうか。それはどのくらいの時間をかけて、どのようにして身につけるべきなのでしょうか。

まず、手元にある2005年度秋季仮検3級の試験問題冊子を検討してみましょう。これはなるほど、受験者の基礎的なフランス語力を見るのにきわめて綿密・周到につくられた問題です。試験時間は、筆記60分、聞き取り15分、計75分、配点は、筆記70点、聞き取り30点、計100点です。

筆記は9問から成ります。フランス語の部分を日本語にして、内容を説明します。

(1) 「以上です」「今、流行っています」のような日本語の短い口語表現と、それに対応する一部が空白になっているフランス文が掲げられ、その空欄を埋める。

(2) 「彼女は脚をけがしたのですか？ - はい、庭で友達と遊んでいた間に」というような会話文の「遊んでいた」という動詞の不定詞がカッコ内に示され、これを適当な形に変化させる。

(3) 「もし今晚ご両親を招待したいのなら、早くかれらに言いなさい」という会話文の空欄になっている代名詞の部分を3つの選択肢のなかから選ぶ。

(4) 「いまこそ、決断するときだ」のような短い文章の前置詞を選択肢のなかから選ぶ。

(5) 「できるだけ速く私の仕事を終えます」という8つの単語から成る文の5つの単語が空白になっている、その3番目に入る語を選択する。

(6) A「昨日の晩、あなたはどうして電話をくれなかったの？」B「（空白）」A「そんなことない。あなたはそう言ったのよ」のように、Bのことばの部分が空白になっている。それを3つの選択肢「1. したよ。きみが留守だったのだ。2. できなかった。時間が遅すぎた。3. きみに何も約束していないよ」から選ぶ。

(7) 「雨が降っているとき使うもの」「叔父、叔母の娘」などに対応する単語を選択肢のなかから選ぶ。

(8) 「私は今年の夏休みに、一ヶ月間南フランスで過ごした。」ではじまる10行ほどの文の内容を問う。「このレストランは海岸にある」など、日本語で書かれた6つの短文の適否を問う。

(9) 警察官とポールの会話における一部の空白を埋める。「バッグはどこで取られたのですか？」「リヨン駅です。切符を買おうとしていたのです」「（空白）？」「お金が少しと学生証です」「（空白）？」「黒で、馬の絵が入っています」と続く会話文で、選択肢のなかには当然、「そのバッグの中には何が入っていましたか？」「あなたのバッグはどんな風ですか？」も入っている。

聞き取りは3つの問題からなります。

(1) ドニ氏とデュポン夫人の会話の短い、いくつかの空白部分を埋める。

(2) 「毎朝彼は駅で新聞を買う」など、5つの短文が3回発音される。9つの絵から短文の内容を描いたものを選択する。

(3) ミシェルと通行人の女性の会話を3回聞いて、日本語で書かれた「ミシェルは図書館を探している」「目的地に行くには1時間かかる」など5つの文の適否を問う。

いかがでしょうか。筆記問題について言えば、(1) (6) (9) を解くには会話のテクストに、(3) (4) (5) では、代名詞、前置詞の使い方に、また文の構成あるいは語順に、習熟していかなければなりません。(7) は基本単語の知識が、(8) は簡単な文章文をある程度の速さで読む能力が、前提となっています。(2) は、とくに注意を要しますが、すべての動詞の活用が自在にできることを示しています。このように言われると、あまりに課題が多すぎると思われるかもしれません、そんなことはありません。要は、これらのこととを部分的にこなしてゆくではなく、大きく全体的に、文と活用を声を出して発音する、発音した文と活用を書き取る、の2つの作業に集約させるだけでよいのです。

では、仮検3級のレベルに達するために、何を目標に、どのように勉強したらよいか、もう少し具体的に言います。たとえば、大学に入学して2つ目の外国語としてはじめてフランス語を学習する場合を考えてみましょう。次のような考え方で取り組んではいかがでしょうか。参考にしていただければ幸いです。

1) 目標：フランス語の文法的知識、語彙・表現の基礎を身につける。具体的には、文の発音ができ、すべての動詞の現在の活用ができる。

2) 方法：主として会話テクストを用い、文の発音・書き取りを繰り返す。

3) 学習時間：100～150時間（6ヶ月ないし1年以内に。たとえば、週2回の授業を1年間履修して、授業以外に毎日10分をかけると、1年間で、終了。）

4) ポイント：毎日続ける。覚えるのではなく、慣れる。飽きないうちに止める。

仮検への挑戦

文学部 2年

田 中 春 菜

私は文学部の英語圏文学専攻に所属していますが、週に一度、第二外国語として選択したフランス語の授業を受講しています。中学生のときから英語がずっと好きだったので語学には比較的興味があり、大学入学当初はフランス語という新たな言語の学習が出来ることをとても楽しみにしていました。しかし私は授業を二、三度受けただけですぐに挫折しそうになりました。フランス語には動詞の活用、名詞の男性形と女性形など覚えなくてはならないことがたくさんあり、今まで外国語と言えば英語しか知らないかった私にとっては信じられないほど複雑な言語に思えたのです。初めのうちはどうにか宿題だけはやっていた私でしたが、理解しきれないままどんどん進んでいく授業についていけなくなり、そのうちに出された宿題さえやらなくなり、上達するどころかせっかく一度覚えた単語や文法を忘れていく始末でした。私は心のどこかで「勉強したってどうせフランス語なんて使わない」とか「自分が一番やりたいのは英語なんだからフランス語までやる必要はない」、「単位さえ取れればそれでいい」などと思っていたのだと思います。

そんなわけで私がフランス語検定を最初に受験するに至ったのは決して自発的な理由からではありませんでした。そのとき担当だった先生に全員フランス語検定を受けるように強制された結果でした。初めて受験したのは一番初歩の5級でしたが、授業で完全に取り残されていた私にとっては難関でした。それまでフランス語の勉強を避け続けてきましたが、「どうせ受けるのなら受かりたい」という気持ちからようやくフランス語の勉強を再開しました。私がそのときにやったのはとにかく過去の試験問題を解くことでした。そして答え合わせをした後に自分の間違えた問題の見直しを一問一問丁寧に全部やりま

した。当日の試験問題はどれも過去問と似ているものだったので、勉強した成果をそのまま發揮する形で合格することが出来ました。その後4級もまた同じ先生の強制で受験することになり、5級のときと同じように過去問で対策をして受かることが出来ました。

私のフランス語検定三度目の挑戦は、先生からの強制によるものではなく、自分の力を試してみたいという気持ちから私自身が受けることを決めたものでした。1年生のときは週に二度あったフランス語の授業も今は週に一度しかありませんが、毎日少しずつでもフランス語の文を見たり、聞いたりし続けて、出来る限りフランス語に触れる時間を作るよう心がけました。これはフランス語に限ったことではなく、全ての語学において共通の重要なポイントの一つだと思います。これからフランス語検定を受験する人は、教科書でも対策本でも何でも構わないで、フランス語の文を毎日少しずつ読むといいと思います。試験間近になってから慌てて猛勉強するよりもきちんと覚わると思います。それと、過去問は何度か解いておくことをお勧めします。フランス文学専攻以外の人はフランス語の授業は多分週に多くて二回しかないと思いますが、自分の専攻科目と並行して勉強を続けること、そして試験に合格することは十分可能だと思います。

フランス語検定はフランス文学専攻の人だけがやるものだと思っている人もいるかもしれません、第二外国語としてフランス語の勉強をしている人や、学校では全くフランス語の授業を受けていない人でも、どんどん挑戦してみたらいいと思います。検定試験は今の自分の実力を測るいい物差しになるし、試験をきっかけに勉強を始めてみて、その言葉に興味を持てれば、もっと語学の勉強は楽しくなると思います。私も初めは英語ばかりを上達させようとしていましたが、英語以外の言語も学ぶことで共通点・相違点を見比べながら、言葉の形をはっきりと見て取ることができるようになりました。英語はフランス語の影響を強く受けているということもあって、フランス語をやることで英語に対する見方も変わってきます。だから、フランス語検定というものを一つのちょっとしたきっかけとして、いろいろな言葉の良さに気付ければいいと思います。

中検に挑戦 —各級のレベルと 対策あれこれ—

国際コミュニケーション学部

塩山 正純

「酒は百薬の長」など酒の定義にもいろいろあるが、酒とは、飲んでいるときには呑み足りず、呑み終えたときにはかならず呑みすぎているものだと言った人がいる。これほど適切な定義はない。

なんだか小難しい文章ですが、実は昨年11月の中検1級に出た作文問題です。いきなり、こんなものを見せられたら、ちょっと面喰ってしまうかもしれませんね。検定も上級になると、こういう高度な作文力も試されますが、それをを目指すのは、さらに中国語を究めた後のこと。今回は、大学で第2外国语として中国語を勉強する皆さんに、自分の中国語のレベルを中検で力試ししてみたいとき、どんなところに気をつけたらよいのか、簡単にお話ししてみましょう。

大学に入学すると、外国語の一つとして中国語を習いはじめます。最初のひと月くらいは、どの教室からも、b o, p o, m o, f oと、発音練習のにぎやかな声が聞こえてきます。そのとき、多くの先生は「中国語は発音よければ、半ばよし」というようなことを言います。その意味するところは大体こんなところです。発音をキチンと身につけると自信ができます。単語、文章を暗唱するのが楽しくなります。楽しいから覚えやすく、覚えやすいから沢山覚えます。覚えたものは使ってみたい。だから、授業や中国人との会話で実践します。そこで通じると、うれしい。だから、もっと覚えてつかいたい、という具合にプラスの循環がはじまるということなのです。そうなると、文法もきっちり覚えたくなりますし、漢字もピンインもおろそかにしなくなります。何をおいても、こここのところが基本中の基本です。その逆のマイナスの循環にはまるとどうなるか、も

う分かりますね。発音がきちんと出来ないひとが、一所懸命に中国語でネイティブに話しかけても、相手にとっては何か訳のわからない音声というだけで、通じません。通じないから自信をなくします。やる気がなくなります。そしてどんどんいやになる、ということです。検定1つとっても、発音をきちんと身に付けて、付け焼き刃で勉強しても何にも身に付きません。発音をおろそかにするひとは、こと中国語に関して、あなたの未来に前途はありません。今回の検定対策も、まず基本姿勢をきちんと守れる人に対してお話をします。

話が大分よこみちにそれてしましましたから、本題にもどりましょう。やさしい級から順に、各級のレベルとどんな勉強をしておくべきかを見て行きます。

まず準4級は、中国語学習への入場パスと言えます。1年生の4月から90分授業を週2コマ受けて、春学期が終ったくらいが合格の目安です。準4級で問われるのは、まず中国で使われている簡体字をきちんと書けるか、ということ。そして、中国語の基本の発音、例えば有氣音、無氣音がきちんと聞き分けられるか、ピンインや声調符号が読めるか、聞いた発音をピンインで正しく表記できるか、などの基本中の基本です。あとは最初歩の簡単な文法事項です。特別対策をしなくとも、日頃習ったことをきちんと覚えて受験すれば、確実に受かります。

4級は、1年生で使ったテキスト1冊をきちんと覚えれば、まず安心です。リスニングは100点満点で、中国語の問い合わせに相応しい返答を選ぶもの、文章の内容を問うものの2種類があります。最近のテキストには、本文や例文のCDもついています。リスニングの練習も、こういったものを活用すれば手軽にできるでしょう。たとえば、いま筆者が担当している1年生のクラスでは、1課ごとにリスニングの書き取り問題をやっていますが、やる気のあるC君は、CDをi podにダビングして授業前の通学の車中で繰り返し聞いています。こうやって常日頃から中国語の生の音声に慣れておくことも大事です。教室での先生との中国語のやりとりは、場面がありますから、コミュニケーションにはあまり問題

が生じません。一方的に流れてくる中国語を理解しながら聞くというのは、かなりの訓練が必要です。試験のときだけいきなり、なんて無謀なことはやめましょう。絶対に日頃からの対策が必要です。また、筆記問題も100点満点で、声調とピンインの発音問題が配点20点であなどれません。このほか、穴埋め問題20点、並替え20点の合計4割が文法問題です。長文読解が20点です。作文は20点で、例えば「あなたはフランス人ですか」というような基本が問われます。

3級で要求されるのは、大学の第2外国語で1、2年生の授業をきっちり受けたくらいのレベルです。1年生と2年生のテキスト2冊をきちんと勉強しておけば問題の8割くらいはカバーできます。2年間必修で授業を履修するひとは一応、合格ラインをクリアできます。経済学部は第2外国語の必修が2単位しかありませんから、3級を目指すなら2年生まで履修してしっかり授業にでましょう。リスニング、筆記問題ともに、形式と配点は4級とほぼ同じです。テキストでいえば1冊のところが、2冊分になるのでレベルも当然高くなります。例えば作文では、「ご飯を食べ終わってから買い物に行きます」のように接続詞を使うものや、「彼女は友人に手紙を書きます」のように前置詞（介詞）を使うものが題出されます。

2級は、たとえば国際コミュニケーション学部の中国語専攻の3年生までの内容をきちんとやれば大丈夫、というくらいのレベルです。中国語専攻では、3年生までに具体的に、テキストの暗唱や会話の練習をする口語中国語、中国語作文、発音練習などがあります。中級になると、中国語のノンフィクションの文章の講読や、中国語のテキストを輪読しながら異文化コミュニケーションについて討論する授業など様々です。総合的に中国語の能力を高めながら、中国の文化やコミュニケーションについても知識を身につけていきます。他学部、他専攻の皆さんも、もっとレベルの高い中国語を勉強したいひとや、中検の上級に挑戦したいというひとは気軽に授業をのぞきに来てください。やる気のあるひと、大歓迎です。

準1級になると、2級よりさらに高度になりますが、3年半くらいきちんと勉強しておけば何とかクリアできるレベルです。リスニングに関しては、テレビやラジオの音声を聞き取る能力が必要です。最近は中国のテレビやラジオもインターネットで手軽に視聴できるようになり、ずいぶん身近になっています。ですから、やる気とパソコンさえあればいつでもどこでも勉強できます。筆記問題に関しては、新聞や雑誌の記事を読んだり、なんでもいいから小説を一冊きめて読みきる、といった勉強方法が効果的でしょう。いずれにしても準1級になると、教室で習ったことに、自分なりのプラスアルファが必要です。さらにレベルを高めたいという本人のやる気が重要な要素といえるでしょう。

1級は、実を申せば、日本人にとっては実に難しいです。最近では、1級に挑戦しているひとは、仕事の関係で日本に住む中国人やその家族など、生まれながらに、あるいは環境的にバイリンガルの状態にあるひとがほとんどです。日本人で挑戦しようというひとはまず、日本語から鍛え直さないといけません。というのも1級で要求されるのは、中国の知識人が読み、書き、話すレベルだからです。中国人の知識人と付き合えばすぐに分かりますが、彼らは、随所に故事成語をちりばめながら、話したり書いたりして、教養の深さをかもしだしているのです。1級ではこんな中国語のレベルが求められるのです。日本語に置き換えて考えてみてください。筆者など気が遠くなりそうです。たとえば、日常会話で「他人の失敗を『他山の石』として、今後の教訓にする」なんて日本語を話していますか。1級を目指すには、まず母語である日本語から改善していかねばいけないようです。以上、とりとめもなくお話をしましたが、参考になりましたかどうか。



我学习汉语的方法

国際コミュニケーション学部 2年

木村 恵子

語学は、やはりコツコツ続けることが大切だと思います。覚えるまでの時間と忘れるまでの時間を比べると、圧倒的に忘れる方が速くて、何回覚えてもすぐに忘れてしまうということがあります。しかし、私がこれまで楽しくやってこられたのは毎回楽しくて中身のある授業をしてくださる先生方や、一緒に勉強する友達のおかげです。ここで少し、私の中国語検定受験の体験を話したいと思いますが、検定の勉強はほとんど普段の学習によるものだったので、日々の学習方法を中心に述べたいと思います。

私が初めて中国語検定を受けたのは、2年の6月のことです。そのときは、挑戦というよりは確実に合格を狙っていこうと思い、4級を受験しました。勉強は4級の問題集を買って間違えたところを何回か解き直したり、1年のときに使っていたテキストを見直したりしました。私は声調記号や単語を覚えるのが苦手なので、何度も何度も紙に漢字とピンインを繰り返し書き、同時に発音しながら体に覚えさせました。その結果、無事4級に合格することができました。

要領が悪くて時間がかかる方法ではありますが、私は普段次のように勉強しています。

口語の授業では、毎課ごとに発音（暗唱）のチェックがあるのですが、それは必ず覚えていきます。なぜならこれは自分の語学力アップのためなのですが、それに加えて、これはいつもペアで行うものなので、時間がなくてちょっと手を抜きたいなあと思っても自分のせいで友達に迷惑はかけられないというのも理由の一つです。覚え方は時間の有無によって多少異なってはきますが、いつもまずCDを何回か聞くところから始めます。そして声調や有氣・無気の区別などに気をつけて教科書を見ながら読み、それらがだいたい覚わったと思ったら、今度は日本語訳と照らし合わせながら一文一文覚えていくって最終的にはスラスラ言えるようになるまで練習します。途中書いて覚えることもあります。そして学校に行ったらいつもペアの友達と授業が始まる前に練習し

ます。何回かやるうちに最初よりスムーズに言えるようになるし、一人でやるよりもずっと楽しくて覚えも速いです。ペアの友達はいつもちゃんと覚えてきていて、彼女は私をいつも「もっとがんばらないと！」という気持ちしてくれます。

長文の授業では、訳をすべて書かないようにしています。書かなくても、授業のときに音読と日本語訳が出来るように何回か読んでおきます。訳をすべて書いてしまうと後から見たときにその訳を読んで分かった気になってしまうことがあります。それに気がつかないことがあるからです。その代わり、自分の自信がない箇所や後で忘れそうな箇所、ポイント等はちゃんとメモしておかないとあとで見直したときには忘れているので集中しなければいけません。

予習は授業を集中して受けるために大切なことだと思います。まだ習っていないところなので、わからないところがあって当然だし、そのわからないところをはっきりさせていくのが予習だと思います。それに、予習をしていくことで授業を効率良く余裕を持って受けられるので、新しいことを吸収しやすい気がします。また、勉強はやりっぱなしでもいいと思います。高校生のとき、担任の先生に「時間がなくても、授業でやったことをその日のうちにもう一度見なさい。それがたとえ数秒のことでも、後から見直すときに記憶に残っていて思い出しやすくなるから。」と言われたことを思い出し、今でも見直しは出来るだけその日のうちにすることにしています。

私はこのような感じで勉強しています。そして先日、中検3級に挑戦しました。今回も検定対策は問題集を解いたり、授業で使っているテキストを見直したりして苦手部分の見直しをして新出単語を覚えました。当日のリスニングは練習していったものよりも速かったし、迷う問題も結構ありました。また、試験が終わってから間違いをいくつか発見してしまい、ショックを受けることもしばしば。今は結果待ちなので、合格したかどうかはまだわからないけど、検定に挑戦することでまだ自分がわかっていないこともわかるし、たとえ間違えてしまったとしてもそれが印象に残るので次また同じような問題が出たときにはもう同じ失敗はしにくくなります。そしてなにより、合格すれば自分の自信につながり、もっとがんばろうという気がおこります。

中国語を勉強することは楽しいしもっと出来るようになりたいので、これからも勉強を続け、その能力をはかるために検定に挑戦していくこう思います。中検だけに限らず、HSKなどにも挑戦していきたいです。

ハングル各種検定について

国際コミュニケーション学部

片 茂 永

近年、韓国文化への関心が高まる中、ハングル勉強に挑戦する人々も年々増えています。それ自体はとても微笑ましいことではありますが、しかしそれが一回きりの好奇心に終らないためには、検定試験に合格しておくのもいい方法かと思います。とはいってもハングルを勉強してから挑戦できる検定試験には一体どういう種類のものがあるかよく分からないと答える学生が多かったので、その種類や受験方法についてご紹介したいと思います。

一つ目は韓国語能力試験です。韓国語能力試験は韓国の教育部が外国人に対する韓国語教育を目的に開発し実施する検定試験です。したがって、試験の形式的な主催は韓国教育部の韓国教育過程評価院になりますが、実施は東京都港区南麻布にある財団法人韓国教育財団が行います。しかし、東京韓国総合教育院や在日韓国教育院からも詳細が常に紹介されていますので、インターネットを通してそちらへアクセスしていただくことをお勧めします。

級別は、1級から2級（初級）、3級・4級（中級）、5級・6級（上級）となっていますが、通常の級と逆に難易度が設定されていますので注意が必要です。受験料は各級一律 4,200円（受験票、通知書等の送料200円含む）ですし、資格は特にありません。基本的に、韓国語を母国語としない人ならだれでもOKです。出題内容は、筆記・語彙及び文法・聞き取り・読みの4分野で、各100点。トータル400点満点です。試験時間は、まず午前の部は[1・3・5級]筆記/語彙・文法 10:00 - 11:30、書き取り/読み 11:55 - 13:25となっています。午後の部は[2・4・6級]筆記/語彙・文法 14:10 - 15:40、書き取り/読み 16:05 - 17:35です。

級別レベルですが、1級は基本文型と基礎語彙

1,000語程度を用いた短い文を読み、理解し、簡単な挨拶、慣用的な表現が可能な程度を要求します。2級は平易な韓国語を話し、読み、書きができ、基本語彙を1,500～3,000語程度用いた文章を理解、簡単な対話が可能な程度です。3級は日常生活において語彙に不便がなく、よく使われる言葉、文章をゆっくり聞けば充分理解でき、短い文で意志伝達が可能な程度。そして4級は日常言語の使用は充分可能で、電話での問題処理も可能、一般文書の構造は殆ど理解できる程度です。なお5級は日常言語活動において不便がなく、文書（新聞記事、説明文、書簡等）やテレビ・ラジオのニュース、平易な解説等を理解し、自分の意見を述べられる程度。6級は高度な言葉、文書（新聞、雑誌、教養書、文芸作品等）やテレビ・ラジオ、公演等の内容を充分理解し、文書又は言葉で正確に伝達でき、討議、討論で自分の意見を正確に述べられます。

合格基準ですが、1級は総配点の60%以上（400点満点の240点以上）、2級は総配点の60%以上（400点満点の240点以上）、3級は各領域別（4分野）30%以上で総配点の60%以上、4級は各領域別（4分野）30%以上で総配点の60%以上、5級は各領域別（4分野）60%以上、6級は各領域別（4分野）60%以上です。

申込み方法は、過去の問題集に添付の願書を郵送するか、または実施財団に郵送で申し込みます。郵送にて願書を申し込む場合は、切手80円（1部用）または90円（2部用）を貼った長型3号の封筒を用意し、自分の住所・氏名を明記したうえで財団まで請求します。

二つ目はハングル能力検定試験です。この試験は南北（大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国）の、いずれの正書法（綴り）も認めた、ハングル検定試験ですが、1級・準1級では面接もあります。主催は東京都港区にあるハングル能力検定協会です。級別は1級・準1級・2級・準2級・3級・4級・5級です。受験料ですが、1級：10,000円、準1級：8,000円、2級：6,000円、準2級：5,000円、3級：4,000円、4級：3,000円、5級：2,000円となっています。あと受験資格に国籍、年齢、学歴などの制限はありません。出題項目は、筆記・聞き取り・書き取り3分野です。

試験時間の編成を見ますと、まず午前の部の[準1・準2・4級]の場合、筆記10:00～11:30 / 10:00～11:30 / 10:00～11:00、聞書11:50～12:20 / 11:50～12:20 / 11:20～11:40。午後の部の[1・2・3級・5級]の場合、筆記 1:30～3:00 / 1:30～3:00 / 1:30～2:30 / 1:30～2:30、聞書 3:20～3:50 / 3:20～3:50 / 2:50～3:10 / 2:50～3:10。

級別レベルですが、1級は高度な内容（一般社会の常識の範囲内）のハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。常識・経験・知識・判断など積極的に用いて、記述された事実をさまざまな視点から検証しつつ読み解くことができます。本国で授業が聞けますし、ハングルで討論ができます。準1級は400時間程度の学習レベルですが、つまり高度な内容(一般社会の常識の範囲内)のハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。映画やテレビ、ラジオ放送が十分に理解できますし、スピーチ、通訳ができます。2級は200～300時間程度の学習レベルで、日常生活や職業上の用務を果たす上で必要な、一般的なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。電話で会話ができ、新聞、雑誌などを読んで殆ど理解できます。手紙を読んだり書いたりもできます。準2級は150～180時間程度の学習レベルですが、日常生活に必要な一般的なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。電話で簡単な会話ができ、辞書を引いて新聞、雑誌などを読んである程度理解できます。簡単な手紙を読んだり書いたりもできます。3級は120時間程度の学習レベルで平易なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。ホテルで予約したり郵便局で手紙が出したりできます。駅などの窓口で用を足すくらいの簡単な会話ができます。基本的な説明文、広告文などが理解でき、簡単な文章を正しく書くこともできます。4級は50～60時間程度の学習レベルで基礎的なハングルを読み、書き、聞きとることができます。初步的な語句で簡単なあいさつや紹介ができる、ある程度辞書を使うことができます。基礎的な単語で短い文章を書くこともできます。5級は20時間程度の学習レベルですが、ハングルを習い始めた初歩の段階で

す。ハングルのごく短い文を読み、書き、聞き取ることができますし、1から10まで数えることができます。決まり文句としての簡単な挨拶もできます。

合格基準ですが、1級の1次試験は150点満点（筆記90点、聞きとり・書きとり60点）で、110点以上合格。1次試験合格者は2次(面接) 試験に進みます。準1級は、1次試験は150点満点(筆記90点、聞きとり・書きとり60点)で、110点以上合格。1次試験合格者は2次(面接) 試験に進みます。2級は、1次試験は150点満点(筆記90点、聞きとり・書きとり60点)で、110点以上合格。準2級は、1次試験は150点満点（筆記90点、聞きとり・書きとり60点）で、110点以上合格。3級は100点満点(筆記60点、聞きとり・書きとり40点)で、60点以上合格。4級は100点満点(筆記60点、聞きとり・書きとり40点)で、60点以上合格。5級は100点満点(筆記60点、聞きとり・書きとり40点)で、60点以上合格です。申込み方法ですが、手数料(切手400円分)を同封してハングル能力検定協会に願書を請求しますと、折り返し受験案内（願書付）が郵送されます。

三つ目は通訳案内業(ガイド)試験です。これは、外国人観光客のガイドとして活躍するために、都道府県知事が発行する免許で、試験は難しく収入は経験と実力によって差がでてきます。外国人に日本の文化・地理・歴史を紹介するのが主な仕事ですがハングルは英語よりも合格基準が甘いらしいです。東京都千代田区にある国際観光振興会が主催しますし、試験種別はハングルのほか、英語・仏語・独語・中国語・伊語・ポルトガル語・ロシア語があります。出題項目は、1次試験が外国語での筆記試験、2次試験が外国語による会話試験と人物考査、3次試験が日本語または外国語による筆記試験で日本の地理・歴史・産業・経済・政治および文化一般に関する一般常識が問われます。レベルですが、韓国語能力試験4・5級、ハングル検定2級程度の語学力に加え、旅行業に必要な日本についての一般常識です。

以上、三つの試験を紹介してみましたが、皆さんはどうぞ挑戦しますか？

私の韓国語學習

国際コミュニケーション学部 3年

金 田 佳奈絵

高校生のとき、修学旅行で行ったことがきっかけで興味を持った韓国。そこで仲良くなった韓国人の友達ともっとたくさん話したい、そんな単純な理由で学び始めた韓国語。私が韓国語を勉強し始めたのは、高校卒業直後の春休みでした。大学入学まで時間があったので「まず文字を覚えよう！」と思い、修学旅行のときに配られた冊子を見ながら、小中学生が漢字の練習をするように毎日ハングルを練習していました。しかし、ただ手本を見て書いているだけではなかなか覚えることができず、悔しさを感じたりしていました。

その半年後、1年生の秋学期から第2外国語として韓国語を学び始めました。まず驚いたのは、あれほど一人でがんばっても覚えられなかったハングルが、授業だとすらすら頭に入ってくること！それがとても不思議でしたが、韓国人の先生が教えてくださる生の韓国語を、説明を聞きながら、時にはビデオや音楽を使いながら友人たちと一緒に学んだというのが効果的だったのではと思います。やはり語学を学ぶ上で、自分一人ではコミュニケーションは成り立ちませんし、人と接しながら身につけていくことが大切でしょうから。授業以外にも、NHKのハングル講座を見たり、ハングル能力検定試験を受験したりするなど、自主的に韓国語を勉強しました。

また、ちょうど昨年の今頃に約3週間、韓国の慶熙大学校に個人で短期留学しました。今考えてみると「行動力に乏しい私が、ずいぶん思い切ったことをしたな」と感じます。最初は自分でも呆れるほど言葉が理解できず、ちょっとした会話をするのにも苦労しましたが、そんな私に話を理解させるのに相手も大変だったと思います。それでも「3週間しかないんだ！」と思い、積極的にまわりに働きかけていくことを心がけ、学校では毎日韓国語で日記を書いて先生に添削してもらっていました。そして帰国

直前のころには、仲良くなつた現地の大学生と一緒に7、8人でお酒を飲みながらおしゃべりをしたり、カラオケに行ったりしました。これがそのときの一一番の思い出であり、彼らとは今でも時々メールのやりとりをしています。下宿先の方々にもとても良くしていただき、自分でも驚くほど充実した3週間を過ごすことができました。

その後、ハングル検定3級合格に向けて勉強し始めたのですが、4級までと比べるとかなり難しく、悪戦苦闘しながらテキストとにらめっこしていた記憶があります。それでも、問題集を解きながら、分からぬ單語や言い回しは声に出しながら繰り返しノートに書いて覚えるようにし、テキストに載っていない微妙なニュアンスなどは韓国の友人に聞いて教えてもらっていました。そして努力の甲斐あって、ハングル検定3級に合格することができました。実は試験中、ちょうどその回から問題の形式が若干変わっていたことに気づき、焦りはしましたが、うれしい結果に自信がつきました。その数カ月後、再び韓国へ行ってその友人の一人と会ったときには「韓国語うまくなつたね～前は全然会話ができなかつたのに！」と驚かれ、時々聞き返したりしながらも、笑いながら話をしたのを覚えています。

大学での韓国語授業が必修でなくなつた今も勉強を続けていますが、音楽を聴いたり、友達とメールをしたり、日記を書いたり…と、普段何気なく日本語でしていることを同じように韓国語ですることが多いので、正直なところ「勉強」という感覚があまりないんです。特に私は音楽が好きで最近よくK-POPを聴いているのですが、何度も聴いていると言葉が自然と頭に入ってきますし、歌詞の中には「忘れられない」とか「愛してる」という決まり文句のようなものが結構あるんです。決して日常会話で使う言葉が多いわけではないのですが、それが分るとうれしくて、カラオケで歌うこともしばしば。また、意味の分からぬ言葉があったときは試験勉強のときと同様、韓国の友人に教えてもらったりもしますし、逆に日本語を勉強している友人に日本語を教えることもあります。

こんなにすばらしい経験ができるのは、今まで関わりあつた全ての人たちのおかげだと思っています。人との出会いと感謝の気持ちを大切に、これからも楽しみながら韓国語を勉強していくことを思っています。

ゴー!! ゴー!! タイ語検定

国際コミュニケーション学部

加 納 寛

せっかく一生懸命勉強したなら、大学外でも使える資格をとっておきたいよね。そこでお勧めするのが「タイ語検定」。

実はいろいろな種類の「タイ語検定」があります。でも、資格保持者はごく少数!! レアでしかも使える資格ですから、ぜひゲットしてみてください。

そんなレアな資格をゲットした先輩たち、愛知大學はたくさん輩出しました。そうした貴重な人材の一人、永坂鮎美先輩の合格体験記が21ページに掲載されていますので、是非読んでね!!

ということで、詳細は永坂学生に譲るとして、ここでは、日本国内の試験を中心に概要のみを紹介し、少しタイでの試験にもふれておきたいと思います。

1. ABKタイ語検定試験

日本国内のタイ語検定を運営しているのが、アジア学生文化協会（ABK）です。もともと、日本での民間タイ語教育に輝かしい歴史をもつ日タイ経済協力協会によって運営されていましたが、現在はタイ語講座も検定もABKに引き継がれました。本学にも一時ご出講いただいた水野潔先生が主任講師をつとめていらっしゃいます。

このタイ語検定は1994年に始まり、年間2回（6月、11月）、現在までに25回実施されています。

試験会場はそれほど多くないのですが、何と（!!）名古屋会場も毎回開設されるので、愛大生にとっては有利です（東京まで行かなくてよい!!）。

試験のレベルは、1級から5級まであります。それぞれの認定基準は次のようす（ABKタイ語検定試験案内より抜粋）。

【1級】極めて高度なタイ語運用能力を有し、新聞の政治・経済面、一般文献なども読みこなし、会議通訳、一般翻訳などができること。

【2級】社会生活に必要なタイ語を正確な発音で使いこなすことができる。新聞や雑誌の社会面を読み、

訳すことができること。一般通訳、翻訳に不自由しないこと。

【3級】日常会話および新聞や雑誌の一般記事（特に専門用語を含まないもの）などの大意をつかむのに必要な文法・語彙を有しており、正しい発音ができる。常用単語の読み書き、および文章の聴き取り、組み立てができること。

【4級】一般的文法を理解し表現できること。基本単語の読み、およびごく初步的な会話・文章の聴き取りができる。語彙数2000程度。

単語参考書として『実用タイ語会話1』（泰日経済技術振興協会編）

【5級】基本的文法を理解し、表現できること。初級単語の読み、およびごく初步的な会話・文章の聴き取りができる。語彙数約500。

文法・単語参考書として『CDエクスプレス・タイ語』（白水社）

1級保持者はまだ出現していないとか…（というより試験自体が実施されていません）。タイ語検定自体が新しいので、現在活躍中のタイ語教員や通訳者・翻訳者のほとんどはタイ語検定を受験していないのです。でも、現在学習中の皆さんには、目に見える学習成果の指標として、ぜひ受験してもらいたいと思います。

2級は、1年1回しか試験が実施されません。大量のタイ文をナチュラルなスピードで読解していく能力が必要になります。

3級を取得すれば、就職などでもかなり認められるでしょう。本学でタイ語を学習する皆さんには、ぜひこの3級を目標にがんばっていただきたいものです。本学の2学年までの授業で、3級の認定基準まではカバーしているつもりです。授業に積極的に取り組み、予習・復習を怠りなくすれば、3級は自然に射程圏内に入ってくると思います（ま、射程圏内と合格圏内とは違うんだけどね…。単語も授業外の学習で増やしておく必要があるし、大学で購読している新聞や雑誌にも日常的に目を通す習慣があるとよいでしょう）。

4級は、実務でタイ語を使用したい場合には、最低限もってみたいレベルです。2学年時の秋に取得するのを目標にしてほしいと思います（「目標」ですからね…。達成できなかったら3学年時の春でも秋でもいいんですよ。とにかく努力を続けることが重要です。できれば就職活動を始める前までに取得したいですね）。

5級は、2学年時の春の取得を目指してほしいものです。そしてさらに上級を狙うステップにしてほしいものです。ま、5級でも、就職活動時に資格欄に書いておけば、きっと輝くはず。面接時の話題くらいには使えるかもね。

試験前の対策ですが、まずは過去問を手に入れるのが早道です。出題の傾向を掌握することができるからです。過去問は、LL自習室で閲覧可能です。LL自習室には聴解問題練習用のテープも備え付けてありますが、実際の検定試験ではもっと速いスピードで読まれるようですから、テープの勉強だけで安心してはいけません。

単語については、水野潔先生の『タイ語基本単語2000』（語研、1989）をお勧めします。何といつても暗記するのに手頃な単語数ですし、タイ語検定で出題される単語も、網羅されています。5級レベルでは、まずタイ語を見てすぐに対応する日本語を口にする練習をするとよいでしょう。4級レベルでは、日本語を見てタイ語を口にする練習を、3級レベルでは日本語を見てタイ語を書き取る練習をするとよいと思います。1週間1サイクルで練習し、5サイクルも勉強すれば、すごく自信ができます。

2. 実用タイ語検定

日本には、もうひとつの「タイ語検定」があります。それが「実用タイ語検定」です。5級の受験にはタイ文字が読めなくてもできてしまうという、ABKタイ語検定に比べればちょっとお手軽感のある検定です。

レベルは、以下のとおりです（日本タイ語検定協会HPによる）。

【1級】より高度なタイ語能力を有し、タイ語翻訳者・タイ語通訳者として通用するレベル。（タイの中学校1年以上レベル）

【2級】社会生活に必要なタイ語を理解し、簡単な新聞記事が読め、簡単なタイ語翻訳やタイ語通訳ができる。（タイの小学校4年レベル）

【3級】基本的なタイ語を理解し、日常生活を送るのに十分なタイ語を理解し、意志疎通が出来る。簡単なタイ語書籍が読める。（タイの小学校2年レベル）

【4級】初步的なタイ語の単語や文章が読め、書くことが出来、聞き取りができる。（学習時間約45時間）

【5級】初步的なタイ語の単語や文章が読み書きが、

カタカナとローマ字発音表記で出来、聞き取りが出来る。（カタカナとローマ字で出題、解答。出題レベルは4級程度）

LL自習室にも過去問集がそろえてあるので、一度目を通してみましょう。また、毎回ポスター等を送ってくださっているので、LL自習室前に貼り出しています。

3. タイ文部省検定試験

タイ国内のタイ語検定としては、「ポー・ホック」と呼ばれるタイ国文部省による試験があります。タイの「私立学校法」に基づき、タイ国内の私立学校教員になりたい外国人のために作られている試験です。「ポー・ホック」とは、小学6年生を意味します。この試験に合格すれば、タイの小学6年修了者と同程度のタイ語能力を持つ、と認定されます。

公的資格が大好きな日本人に人気で、受験者のほとんどが日本人であるということです。日本社会での実用性から言えば、レベルの面から見ても「ポー・ホック」試験よりABKタイ語検定試験を目指した方がよいと思いますが、機会があれば両方取得しておくのもよいでしょう（資格をもっていても邪魔にはならないでしょう。機会があれば、ですが）。

試験の内容は、1) 朗読、2) 記述（作文）、3) 聴解・読解、4) 手紙記述です。一見すると難しそうですが、要は試験対策用の勉強です。タイにある民間語学校では、この試験に向けての講座を数多く用意しているので、そうした講座で試験対策をすれば、それほど苦労なく合格するでしょう。留学希望の学生には簡単すぎるでしょう。

さて、以上、タイ語検定試験について概観してきました。ヤルキが湧いてきたかな？ 最後に言っておきたいのは、「検定のためのカネを惜しむな!!」です。これはタイ語だけの話ではありません。「TOEFL受けたいけどおカネがチョットネ…」なんて言っている学生さんをよく見ます。そんなことを言っていては、いつまでたってもスタート・ラインにすらつけませんよ!! 「まだ実力がないから…」というのも同じです。思い切れ!! 飛び込め!! まずは試験を受けてみることです!!

さあ、がんばって、タイ語検定をめざそう!! オー!!

タイ語検定試験

合格への道のり

国際コミュニケーション学部 4年

永坂 鮎 美

これを今、手にとっているあなたはタイ語検定というものがあるのをご存知ですか？タイ語自体は、タイへの日本企業の進出や旅行等で渡航する人の増加により最近になってやっとその存在を知られるようになったと言っても過言ではないかもしれません。そんなタイ語ですが、とにかく文字の習得が一番難しいです。なぜならばその文字がアラビア文字みたいで一見すると文字ではなく何かの暗号みたいに見えるからです。しかし読み書き（特に書き）が出来るようになると、周りの人へのちょっとした自慢になります！そんなタイ語ですが検定そのものもかなりマイナーで2005年の5級の受験者は全会場で33名で、4級の受験者は62名と本当にマイナーな検定です。

それでは今回はタイ語検定試験合格までの道のりと称して、その勉強法とあわせてタイ語検定の概略について述べたいと思います。

まずタイ語検定の概要ですが、タイ語検定には「実用タイ語検定」と「A B K タイ語検定」の2種類があり、前者は過去の試験問題が市販されていますが、後者は市販されていません。そのため後者を勉強するためにはLL自習室にある過去問題を頼りにするしかありません。また試験問題そのものであるが故、回答しかなく、なぜその回答が正解なのかを説明した解説もありません。しかし愛大には過去の先輩方のご協力により、過去問題が5級と4級ともに1998年のものからあるのでそれを有効に利用してください。

問題の中身については5、4級ともに、第1問が穴埋め（5級は10問、4級は20問）、第2問が問答文（10問）、第3問が並び替え（10問）、第4問が会話文（5級は5問、4級は10問）そして第5問がリスニング（5級は5問、4級は10問）となっています。第1問から第3問は過去問を全て解けば、必ず似たような問題が出題されるので、ここで点数を稼ぐことが必要で

す。特に第3問は文法をしっかりやっておけばその規則にあてはめるだけで出来ます！そしてタイ語検定の良いところでもあり、悪いところでもあるのですが、過去問と全く同じ問題が出題されることもあります、そんな時はラッキーだと思って解いて下さい。しかし問題は第4問と第5問のリスニングです。特に第5問のリスニングはタイ語の声調に慣れ親しんでいない日本人にとっては大変難しいです。またLL自習室にあるリスニングテープの早さに慣れていいると、本番ではもっと早いのでついていくことでさえしんどいのが現状です。かといってリスニングは他の問題に比べて対策のしようがありませんので、やはりリスニングは最低限、出来るようにしておき、他の問題で点数を稼いで下さい。第4問については分からぬ単語が出てきても、細かいところにこだわらず文全体の内容を見るようにしてみてください。

では具体的な勉強法について述べたいと思いますが、私は過去問を全てノートに書き写しました！これに要した時間は半端ではなかったのですが、ただ単に問題を解くよりもタイ文字に慣れることができます。これを読んでいる方は、問題をコピーして解けば楽じゃん！と思う方もいるかもしれません、やはり問題を全てノートに書き写すと、単語力もついてお勧めです！そしてそれを見ながら毎回問題を解きました。さらに問題を解くだけではなく、文法や分からぬ単語を調べ、ノートに書き込んでいきました。またどうしてそのような回答になるのか、自分で調べても分からぬ場合はタイ語の先生やタイ人の友達に聞いて、自分自身が納得するまで勉強しました。その結果、5、4級ともに一発で合格することが出来ました！

1. ทักษิร์น์มังคลาภิเษก	2. บันดาล ชัยวัฒน์
1 ยอดคน 2 ยกพล 3 ต้องดูแล 4 รัก	1 บันดาล ชัยวัฒน์ 2 บันดาล ชัยวัฒน์ 3 บันดาล ชัยวัฒน์ 4 บันดาล ชัยวัฒน์
(1) ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ยอดคน ก็ยอดคน	1 ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ก็ยอดคน ก็ยอดคน
1 ยอดคน 2 ยอดคน 3 ยอดคน 4 รัก	1 ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ก็ยอดคน ก็ยอดคน
(2) บันดาล ชัยวัฒน์ บันดาล ชัยวัฒน์ () บันดาล ชัยวัฒน์	1 บันดาล ชัยวัฒน์ 2 บันดาล ชัยวัฒน์ 3 บันดาล ชัยวัฒน์ 4 บันดาล ชัยวัฒน์
1 ยอดคน 2 ยอดคน 3 ยอดคน 4 รัก	1 ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ก็ยอดคน ก็ยอดคน
(3) บันดาล ชัยวัฒน์ บันดาล ชัยวัฒน์ () บันดาล ชัยวัฒน์	1 บันดาล ชัยวัฒน์ 2 บันดาล ชัยวัฒน์ 3 บันดาล ชัยวัฒน์ 4 บันดาล ชัยวัฒน์
1 ยอดคน 2 ยอดคน 3 ยอดคน 4 รัก	1 ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ก็ยอดคน ก็ยอดคน
(4) บันดาล ชัยวัฒน์ บันดาล ชัยวัฒน์ () บันดาล ชัยวัฒน์	1 บันดาล ชัยวัฒน์ 2 บันดาล ชัยวัฒน์ 3 บันดาล ชัยวัฒน์ 4 บันดาล ชัยวัฒน์
1 ยอดคน 2 ยอดคน 3 ยอดคน 4 รัก	1 ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ก็ยอดคน ก็ยอดคน
(5) บันดาล ชัยวัฒน์ บันดาล ชัยวัฒน์ () บันดาล ชัยวัฒน์	1 บันดาล ชัยวัฒน์ 2 บันดาล ชัยวัฒน์ 3 บันดาล ชัยวัฒน์ 4 บันดาล ชัยวัฒน์
1 ยอดคน 2 ยอดคน 3 ยอดคน 4 รัก	1 ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน ยอดคน () ก็ยอดคน ก็ยอดคน

これが実際に問題を書いたノートで、全4冊あります。

ロシア語検定試験に挑戦

経済学部

清水伸子

最近学生から検定試験の相談を受けることが増えてきました。ロシア語は受験場や検定料（7～8千円）の関係で気軽に受験を勧めにくいのですが、検定試験を目指すことは勉強を続ける動機付けにもなりますので、興味がある人は是非目指してください。

現在、日本で受験できるロシア語検定試験は（通訳ガイド試験を除いて）東京ロシア語学院のロシア語検定試験と ТРКИ（「外国人のためのロシア語検定試験」）の二種類ありますが、学習の励みにするならば、文法・語彙に関する試験内容の手堅さと、過去問が入手可能、試験会場（各都道府県にある日本ユーラシア協会で受験可能）から言って、東京ロシア語学院のロシア語検定試験受験をお勧めします。

各級のレベルについて

このロシア語検定試験は、4級から1級までのレベルに分かれています。大まかに説明すると、4級と3級が初級文法事項を確認するレベル（3級には、一部中級文法の内容が含まれます）、2级以上が上級文法事項を確認するレベルとなっています。大学2年生までの語学の授業だけでは、関係代名詞や体（完了一不完了）の使い分け、上級文法に属する形動詞（動詞から作る形容詞のこと。英語では形容詞として使われる現在分詞や過去分詞に相当する）や副動詞（英語の分詞構文）の十分な説明や練習は出来ないと思いますので、2级以上に挑戦したい人は授業プラス独習だけでは苦しいと思います。もう卒業した人ですが、ロシア語を独学していて長期の休みにロシアでの語学研修に2度参加したことのある学生が、3年生の秋に独学の限界を感じて相談に来たことがあります。その人が困っていたのが、動詞の体と運動の動詞の用法でした。確かに、この2つはスラブ語以外の言語を母語にする外国人が大変苦労する部分です。その人とは、卒業までの1年半ほど自主

勉強会を開き、勉強を手伝いました。今までもロシア語を勉強したい人たちと自主勉強会を開いていますので、勉強してみたい人は遠慮なく相談に来てください。

各級のレベルの話に戻りましょう。愛知大学語学教育研究室の奨励金申請対象は4級以上ですし、大学2年生までの授業内容はだいたい4級3級の試験内容に対応していますので、ここからは4級と3級試験に向けた勉強の仕方を紹介していきます。

4級試験と3級試験

4級と3級試験は、文法確認、露文和訳、ロシア語作文、そして朗読（4級。アクセント記号つきテキスト）あるいは聞き取り（3級）の4つに分かれています。

<発音と文法事項>

発音に関しては、キリル文字は大体書いてある通りに発音すればよいので、語末の有声子音の無声化と、後続子音に合わせての無声化（あるいは有声化）、Ч Т Оの発音を押えておけば大丈夫でしょう。

文法では、日本語の助詞（てにをは）が果たす役割を担う格の用法とその変化の暗記が初級文法での必須事項です。しかし4級は、格変化に関しては選択式で出題されますので、形容詞の格変化がうろ覚えでも、名詞の性の区別と格変化さえしっかり覚えていれば正解できます。名詞の変化の暗記が大変という人は、まず一硬子音、-o、-aで終わる名詞の格変化から覚えましょう。この3種類の語尾で終わる名詞は他の語尾で終わる名詞に比べてかなり多いので、練習問題にも本番の試験にも大変有用です。そして、とにかく6格の基本的な用法を特にしっかりと暗記しましょう。前置詞に関しては、4級3級は文法問題で出題されるものが大体決まっていますので、過去2年分の問題から拾っておけば十分だと思います。

4級と3級の格に関する問題は、語彙や構文の点から言って同レベルだと言えると思いますが、解答が選択式ではない点で3級は難しいと言えます。

動詞に関しては現在・過去・未来の3時制をきく4級に対して、3級は命令形、運動・移動動詞の活用変化と用法の理解が問われますので、3級は急に難易度が上がる気がします。100ページ程度の薄い教科書しか手元に無い人は、運動・移動動詞だけは詳しい参考書で練習問題をこなしてから、過去問をや

ってみたほうが良いかもしれません。また、3級に挑戦する人は動詞の命令形を押さえておくほうが良いと思います。

<語彙>

4級の試験の語彙は500語レベル、3級は1000語レベルとされています。ロシア語のような学習者がまだ少ない語学は市販のレベル別の語彙集が少ないのでつらいところですが、ざっと目を通せるぐらいの薄い初級文法だけの教科書で使われている単語と、これに自分の日常をロシア語で表現するときに出できそうな単語を加えて、カードを作ることで十分対応できます。私も、代名詞を除いて、テキストに出てくる単語と、食べ物も含めて身近な単語や自分のことを話すのに必要な単語を自作でまとめた230語強（うち動詞は27語、形容詞は35語）の単語を1年生に覚えてもらっています。検定試験の過去問を見る限り、形容詞はやや不足、動詞は規則変化も込みでもう20語ほど覚え足す必要がありますが、他はあまり問題がないように思います。

3級挑戦者は、曜日・月名・数詞・比較表現などを加えて、さらに全体に語彙を増やして望む必要があります。3級の過去問をやりながら単語カードを増やしていくのが近道だと思います。

和訳・作文のところでも再度説明しますが、ロシア語検定試験では、自分や自分の回りのことをテーマとするテキストが出題されます。身の回りにあるものならば、『机』に『鏡』に、とポスト・イットにロシア語を書いて貼っておくと覚えるのも楽しくなります。試してみましょう。

<和訳とロシア語作文と朗読>

和訳にロシア語作文！？絶対無理！と敷居が高そうな気がしますが、基本的には、4級3級の和訳、作文、朗読文、聞き取り本文も、その内容が日常生活に関するもの、例えば、私（あるいは友人の）のある1日の過ごし方とか、私（あるいは家族、友人）の紹介（趣味・仕事など）といったものです。検定試験はもちろん毎年違う問題が出題されていますが、4級3級では使う語彙が限られていますので、作文や和訳、朗読・聞き取りテキストは内容的に似たものになります。また、ロシアでは、外国語を教える時に、文法学習と同じぐらい音声による会話学習も重視する伝統があり、東京ロシア語学院の検定試験もそれを踏襲しています。4級のロシア語検定試験に朗読という音声面をみる試験が入っている理由

もここにあります。文法も十分に知らないうちから会話表現を学習をするわけですから、自然とそのテーマは「私」の日常や、友人・家族のことになると絞られてくるわけです。

インターネットで言語の検定試験マニアが、『「好き」とか「欲しい』といった不規則変化動詞や所有構文も、まず「私」が主語のときの形を覚えておくべし』とロシア語4級体験談を書いていましたが、なるほどと思いました。基本単語は不規則活用をするものが少なくありません。活用は全ての形を一度に覚えれば面倒はないのですが、どうしても覚えにくい場合には、まずは「私」と「君」に対応する形を覚えると和訳や作文、朗読は攻略しやすいと思います。

そして残念ながら『私の日常』や『私の家族・友人について』というテーマのテキストに対応できていないのが、大学1・2年の授業で使用されている日本で出版された教科書です。文法説明とともに会話文も載せている独習者用の分厚い教科書はありますが、この分厚い教科書をやりきらないと4級の試験を受けられないとすると、せっかくの検定試験突破の意気込みが教科書を買って1週間でしぶんしまいそうです。ですから、そういう本で勉強することはお勧めしません。4級や3級の過去問2～3年分の和訳とロシア語作文と朗読用テキストを丁寧に勉強すれば、表現も語彙もほぼ対応できると思いますので、作文や和訳に恐怖を抱く必要はありません。

しかし、練習しにくいのが朗読のイントネーションでしょう。英語はアクセントのある音節を高く上げる傾向がありますが、ロシア語は逆です。また、平叙文や疑問文のイントネーションは英語と全く違いますので、テキスト付属のCDなどで発音練習する必要があります。NHK講座はテキストが少し短すぎて検定試験攻略には直結しないように思います。東京ロシア語学院の過去問には3級試験の聞き取り問題のテープもついていますので、この音声テープを使って発音・朗読練習をすると大変良いと思います。

ロシア語検定試験の過去問には、解答だけではなく講評と解説もついています。文法の基本事項を教科書で押さえた後で、単語を暗記しながら、過去問数年分を繰り返しやってみるほうが、複数のテキストに手を出すよりも近道だと思います。

学習目的の一つとして、 「ビジネス日本語能力テスト」 への挑戦を！

経済学部

中崎温子



この紙面では、留学生対象の「ビジネス日本語能力テスト」のJLRT(筆記テスト)のみを取り上げたいと思います。本学の「外国語検定奨励金」の対象になっている日本語関連のもう一つの試験、「日本語能力検定試験」(国内外160の都市で毎年実施され、約35万人が受験し世界的に認知されている)に関しては、大多数が既に受験経験があり、多くの人が1級を取得しています。しかし、「ビジネス日本語能力テスト」(JETRO=日本貿易振興機構主催、外務省・経済産業省・経団連・日本語教育学会等後援)は、本学では'05年秋に留学生に紹介し、以降、'06の11月に3回目の受験生を送り出したばかりです。そこで、今回のLLニュースでは、「受験した学生の声」も同時掲載し、今まで受験に消極的な留学生に大いにアピールしたいと考えています。

このテストは、日本語を外国語あるいは第二言語とするビジネス関係者を主な対象としていますが、これから企業に就職しようと考えている留学生や研修生の受験も増えています。'05年秋の中国大連での受験者も、初回であったにもかかわらず、大連外大生をはじめとして1000人を数えたといいます。現在、世界14カ国35地域で実施されています。愛知大学では団体受験の制度(受験料1割引き)を活用し、車道キャンパスを名古屋試験場に提供してきました。

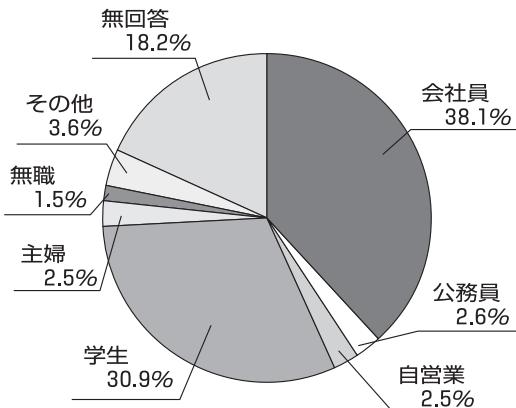
'05年の秋の愛大受験者は、33名、「06年春14名、今回は35名です。480点以上を獲得した学生には前述の「外国語検定奨励金」を出しています。テストとの関わりの歴史は浅いのですが、東海地方の先進校として注目されています。

JLRT 聴読解テスト(筆記テスト) Japanese Listening & Reading comprehension Test

与えられたビジネス上の課題を処理する
総合的な日本語の技能を測るテスト

- 録音された音声と問題用紙の文字や視覚情報を使用
- 解答はマークシートの四肢選択方式
- 800点満点
- 3部構成

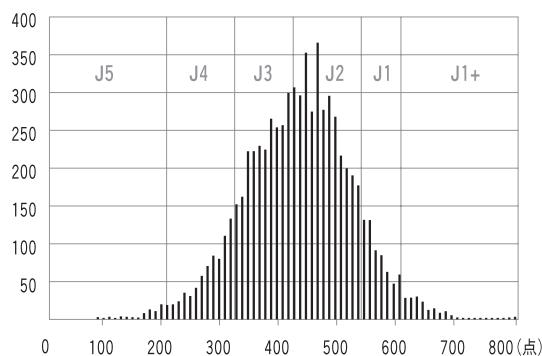
第1部	聴解	35題／50分
第2部	聴読解	30題／30分
第3部	読解	35題／40分
合計		100題／120分



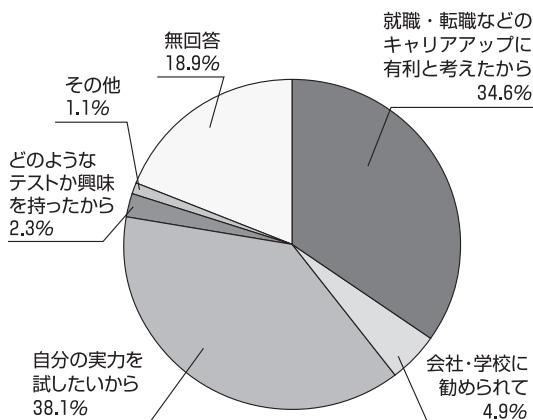
■JLRT受験者の職業
(第8回～第11回の統計)

テストは、「合格」「不合格」ではなく、J5級からJ1+級までの到達度を示します。さらに、530点以上取得者のうちの希望者が、コミュニケーション能力測定テスト(JOCT)のステップに進むことができます。

(各)



■JLRT受験者の得点分布
(第8回～第11回JLRT受験者7,251名の統計)



■JLRT受験申込者の受験理由
(第8回～第11回の統計)

「ビジネス日本語能力テスト」は、現実のビジネス場面をできるだけ多く出題内容に反映させたテストです。語彙、文法やビジネスに関する専門的な知識の量や正確さを測るのではなく、ビジネス場面での実際的な日本語の理解力やコミュニケーション能力の測定・評価に重点が置かれています。従って、ビジネス現場での幅広い一般的な知識と感覚が必要となり、アルバイト経験しかない圧倒的多数の留学生にとっては、「日本語能力試験」よりも難しく感じられることだと思います。また、聴読解テストは、短い時間で、いわば、異文化間でのインターパーソナル・コミュニケーションの中での「問題解決能力」も目指さねばならず、読解部門同様、できる限りの受験準備をして臨まなければ手ごわいかも知れません。そのためにも、今回の「LLニュース」の成績

炫さんの記事はとても参考になると思われます。また、LL自習室には、受験に必要な図書を置いていますので、大いに活用してください。

日本語担当者では、昨年度より、「社会性」や「異文化性」ということを日本語教育のキーワードの列に加え、日本社会で生きていくために必要な情報提示を含めた学習支援・キャリア支援、さらには、文化的アイデンティティを自覚させる営みを通して、異文化下で生きる能力を「主体的に」確立していくための支援といったことのカリキュラム上の具現化を考えました。一般社会やビジネスの現場でも、文化・慣習の異なる相手を尊重し、理解し、日常生活やビジネス上の課題を相互に調整しながら目的を達成する能力を持った人材の育成が求められています。3年生の「日本語演習」科目（選択）では、こういったことが一定反映できるように、授業内容を工夫してやっています。

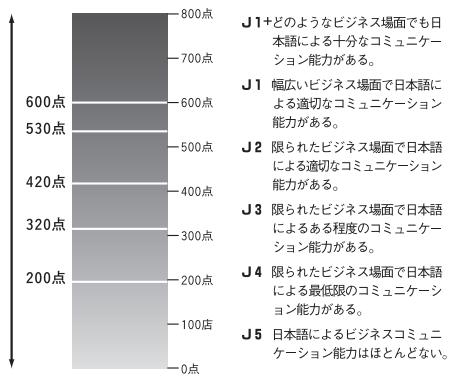
しかし、一方で、留学生の授業風景を見ていると、大半が別科や日本語学校で1、2年の日本語学習を積んで入学を果たしていることから、学部2年生以上になると、滞日の生活がマンネリになったり学習目標を見失ったりしている人も目に入ります。日本（語）にも慣れ、当座に打ち込む目標もなく、なんとなく毎日がすぎていってしまっているのではないでしょうか。2年生の時期は、本来なら、3年生の専門科目への移行のために一層アカデミックな学力を蓄え、併せて、進路開拓のためにコミュニケーション能力に磨きをかけなければならない時です。まして、将来、職場や社会で年齢や立場も様々な日本人たちと協働関係を築いていくとするならば、留学生が負っている「言葉の壁」や「異文化を克服しての問題解決能力」に関して、想像以上に高度なレベルが求められることを心得ておく必要があります。

このように、海外の最高学府である大学に学んでいることの構図に立てば、留学生の将来のビジョンも容易に想定できるでしょう。一人ひとりがキャリアを積むための実践的なモチベーションを高め、積極的に受験してみてください。結果は自然についてきます。それよりもむしろ、受験のための必要な労力とプロセスを重ねることの意味が確認できることと思います。

やった！ 県内で最高得点！

国際コミュニケーション学部 4年
ソン ジュ ヒョン
成 姉 炫

ジェトロ（日本貿易振興機構）主催のビジネス日本語能力テストという試験があることを知ったのは1年前のことだった。当時、私は3年生の選択科目（留学生のみ）「日本語演習」の授業をとっていた。その授業の中で紹介があったビジネス日本語能力テストは、0点から800点のスコアで表示されJ5～J1+（プラス）の6段階のレベルに分けられる。このテストのメリットは留学生の実力アップと日本企業への日本語能力の証明に役立つというものである。



■JLRTのレベルガイドライン

私は去年まで日本語に関連する資格を持っていなかった。2003年に日本語能力試験は受けたもののわずかの点数で不合格だった。それからは少し自信を無くし、しばらく勉強してから受けようと思っていた。やがて2年が経ち、これから進路のことを考えて、2005年11月にビジネス日本語能力テスト、12月に日本語能力試験1級を受けることにした。どんな進路を選んでも必要になるので、これ以上遅らせるわけにはいかないと思った。最初は何から勉強すればいいだろうとあせっていた。そのとき、引き出しの奥にしまっておいた2年前の日本語能力試験の結果通知表を取り出して、自分なりに分析し始めた。私の弱いところを探し、そこから勉強しようと思った。そしてその結果通知表を机の電気スタンドに貼り、横には今年の目標点数を大きく書いた。

やる気満々のスタートで、まず「ビジネス日本語能力テスト」にとりかかった。しかし、やる気のわりにテストの勉強は難しかった。難しいというより慣れない日本語に戸惑っていたかもしれない。あまり使わない謙譲語や尊敬語が早口で流れる聴解と聽読解の問題は、普段ゆったり、ゆっくりしゃべる私には大の苦手な部分だった。これはしょうがない。慣れるしかない、と思ってテキストの付録のCDを家で勉強の時間以外にも流した。洗い物するとき、洗濯物を干すとき、部屋の掃除のとき。あまり聞きたくはなかったけど、耳障りだったときもあったけど、高得点を目指して我慢した。

11月、いよいよ試験の日、試験開始時間は13時、昼ごはんを食べたら絶対眠くなる。この中途半端な時間が不満である。空腹感を抱いて試験に挑んだ。緊張していくあまり覚えてないけど、何もかも早かった。試験が終わって、「初めて受ける試験だったし点数表示だからまた今度頑張ろう」と自分を慰めることにした。12月に受けた日本語能力試験は意外と楽だった。ビジネス日本語能力試験の影響で聴解の流れが遅いと思うくらいだった。しかし、昼休みに友達と昼ご飯を食べながら答案を比べてみて、一つずつ明らかになる私の間違いに落ち込んでしまった。長い試験が終わって家に帰る電車の中では試験が終わったことに対するうれしい気持ちや結果を待つ不安で複雑な気持ちだった。

待ちに待った結果は、まず、ビジネス日本語能力テストはJ2 レベル、日本語能力試験1級は合格点を大きく上回る点数で合格した。二つとも悪くはないと思ったがやっぱり納得いかなかった。このレベルだと履歴書に書いても書かなくてもいいくらいだと思い、私はもう一度ビジネス日本語能力テストを受けることにした。6カ月ぶりに受ける試験は、はじめて受けたときより緊張もしなかった。成績通知表をみたら確かに前回より点数を上げることができた。何よりうれしかったのはJ2だったのがJ1+に、そして私の成績が名古屋で最高点だったことだ。このことを知った日本語演習の先生には会うたびに褒められて私はこの文章まで書くことになった。

私の書いたこの文がLLニュースに載せられ発刊される頃、私は韓国に帰って、4年間勉強してきた日本語を生かす就職活動をしているだろう。もちろん履歴書の語学力欄には自信を持って私自慢の点数を書く。しかし、まだ満足していない。いつまでも私の目標は満点であり、これからもずっと挑戦し続けたいと思う。

LL Tea Time

ベトナム人から見た 日本語と挨拶

国際コミュニケーション研究科
レー チュイ ュー ウィン
LE THUY DIEU UYEN

来日してからもうすぐ7年目を迎える私は、普段、周りの人々と接する時に、何気なく日本語でコミュニケーションを取りながら、その日々を繰り返しています。そのような時に、よく日本人に「日本語は難しい？」と聞かれるものです。その即答は「世界一」です。話の中でよく登場する課題の一つである「漢字圏」と「非漢字圏」ですが、漢字は絵を書くような感覚で習って逆に面白みを感じるかもしれません。最近、通訳の現場ではじめて分かってきたのは、日本語とベトナム語における挨拶言葉のニュアンスの微妙さです。

先ず、家という出発点からの例として挙げましょう。出掛ける側が「行って参ります」に対して、留守側が「いってらっしゃい」と返事します。このようなやり取りは決まった台詞さえ覚えれば、対応出来ます。一方、ベトナム語では、類似している挨拶即ち家の出入りの挨拶が有りますが、日本のように上下関係、親子関係、姉妹兄弟関係等制限無く必ず行うものでは有りません。子供又は年下の人が自分より年上の人には自分の今までの経緯又はこれから行動について報告するのが礼儀です。例えば、出掛ける前に母に向かって「行って参ります」というだけでは怒られた覚えが有ります。なぜかと言いますと、主語がないからです。よく母に「誰と、どこへ、どうやって？」と直されました。母が厳しいせいも有

りますが、よく考えれば、なるほどなあと思います。最近は、そこまで要求されなくなっていますが、その代わりに「喫茶店に行ってくるね」や「2時間で帰ってきます」等のような表現が使われます。又、「行ってらっしゃい」のような台詞も有りますが、大体「気をつけてよ」や「早めに帰ってきてね」、「ゆっくり走ってね」等、よく交通安全のことが注意されます。ベトナムの諺である「行く時に申し上げ、帰宅する時に報告せよ。」という自分と共存する周囲の人々への気遣いを言葉で表現する訳です。換言すれば、無人島でも無い限り、挨拶が欠かせないものとされています。

日本語の同音異義の複雑さ（死亡or脂肪？）、訓読みと音読み（例：力と競争力の“力”）、「同じ字であれば、同じ発音ですれば外国人が楽なのに」と時々呟いているが、一つの決まり文句で全て語れるのが日本語の魅力です。例えば、ビジネス場面における企業間の挨拶である「いつもお世話になっております」について考えましょう。普段、取引のやり取りから成り立った関係で、顔合わせの時にこのような台詞も使えますし、初対面でも使える便利さも取り上げられます。同じ場面であれば、ベトナムにおいては、よほどお世話にでもなっていない限り、ここまで大げさに言わず、「商売は順調ですか」、「元気にはいますか」のような挨拶がよく見られます。

又、仕事の終了後、上司から「ご苦労様です」又は同僚から「お疲れ様です」と言われ、自分も同じように「お疲れ様」と返事し、何の不思議も感じませんでしたが、日本語が母国語でない一方とベトナム語が母国語でない他方の間に入り、さて「お疲れ様です」はどのように訳せば宜しいでしょう。その時は、「今日、一日働いて疲れましたね」と背景を

説明してから言われた文の意味を訳して、日本語が母国語でない一方は「ふ~ん」という反応でした。数名の通訳者が集まると、お互いに目を合わせて、ニコニコしながら仕事を進めていきますが、このような訳し方が妥当かどうか、きっと皆が同じ疑問を抱いていると思います。「お世話になっています」や「お疲れ様です」等、日本の方々がさらっと話している言葉が、そのようなニュアンスを持たない私の母国語との比較で非常に難しく感じています。黙っていてもいけませんし、何とか言葉で表そうと努力するのですが、自分の中で納得できるとは思いませんし、何でも訳せるものではないと思いながら、より良い表現を追求していく姿勢は通訳者の使命でもあるでしょう。

2007年度 外国語検定試験奨励金について

下記により受付しますので、申し出てください。

記

1. 奨励対象者

愛知大学豊橋校舎 学部及び短大の学生
(大学院生、オープンカレッジ・孔子学院生、科目等履修生、研究生は除く)

2. 奨励基準

(1)英語検定	2級以上	(4)中国語検定	3級以上
TOEIC	470点以上	HSK	4級以上
TOEFL PBT	420点以上	(5)ロシア語検定	4級以上
TOEFL CBT	110点以上	(6)ハングル検定	4級以上
(2)ドイツ語検定	3級以上	(7)タイ語検定	4級以上
(3)フランス語検定	3級以上	実用タイ語検定	3級以上
DELF-DALF	B1以上	(8)日本語検定	1級
		ジェトロビジネス日本語能力検定	
		480点以上	

※上記以外の外国語検定試験は受付にご相談ください。

3. 受付期間 2008年1月15日(火)~1月31日(木)

4. 手 続 「学生証」および「合格通知書」を3号館LL自習室カウンターまで持参し、申請して下さい。

5. 奨励金(図書カード)の交付

受付期間終了後に会議で金額を決定し、本人に通知します。

6. 奨励対象の試験 2007年2月~2008年1月の間に合格した検定試験で、同一言語は1種類のみが対象です。ただし、本年度入学生は入学後受験したものに限ります。

(注) 以下の試験は対象ではありません。
TOEFL ITP、TOEIC IP、カレッジTOEIC

愛知大学言語学談話会 第32回

公開講座「言語」2007 プログラム

〈前期〉 愛知大学豊橋校舎研究館

会場は当日、ご確認ください。

〈時間〉 14:30~16:30

2007年

① 4月14日(土)

「グリゼットの青春—19世紀パリ下町娘の一風俗—」
加藤俊夫 (愛知大学名誉教授)

② 5月12日(土)

「フランス語発音カタカナ表記の試み」
高橋秀雄 (愛知大学文学部教授)

③ 6月 2日(土)

「コーパスから英國文化をみる」
塚本倫久 (愛知大学国際
コミュニケーション学部教授)

④ 6月16日(土)

「ジェーン・オースティンの世界」
山口啓三 (愛知大学文学部教授)

⑤ 7月 7日(土)

「中國人大学生の日本語学習」
小池保利 (名古屋産業大学非常勤講師)

〈後期〉 愛知大学車道校舎

会場は当日、ご確認ください。

〈時間〉 14:30~16:30

2007年

⑥ 9月15日(土)

「西洋中世美術における
「ソロモンの王座」図像について」
小林久見子 (愛知大学非常勤講師)

⑦ 10月 6日(土)

「日本最初の西洋哲学史の翻訳・紹介
—高野長英筆『聞見漫録』(1835年)をめぐって—」
別所興一 (愛知大学経営学部教授)

⑧ 11月17日(土)

「「語り」の中のイメージとジェスチャー」
片岡邦好 (愛知大学文学部助教授)

⑨ 12月 1日(土)

「子どもは単語をどのように獲得するのか
—トマセロ理論を紹介する(2)—」
伊藤忠夫 (中京大学名誉教授)

2008年

⑩ 1月12日(土)

「ハングルの勧め」
陶山信男 (愛知大学名誉教授)

◎聴講無料

どなたでも参加できます。(登録不要)